

目次

調査の要約	2
主な調査結果	3
① テーマの設定	4
② 政治についての関心	6
1 投票行動の可能性	6
2 政治に対する認識	14
③ 政治についての態度	20
1 民主化の程度	20
2 憲法についての感じ方	24
3 政治への関与	28
④ 政治家を見つめる目	33
1 政治家のイメージ	33
2 政治家への尊敬度	40
まとめにかえて	44



(共同提供)



調査の要約●

若者たちの政治離れが叫ばれている。確かに、現代のように情報化社会が進むと、政治そのものがショー化し、政治家も一種のタレント化して、本質をつかみにくくなることは否定しがたい。しかし、そうした状況のわりには、高校生たちは、予想される以上に政治を直観的に鋭くとらえている。とはいえ、それはあくまで傍観者としての態度であって、自分自身が政治に関与することについてはきわめて消極的な態度を示している。

政治について、ダーティなイメージが定着しており、政治家が高校生たちの達成目標としての価値を失っているからであろう。

昭和57年 5月

奈良教育大学教授
深谷 昌志



主な調査結果●

1. 投票行動=選挙権を持ったら、投票に行くつもりと答えた者は6割強に達する。こうした面に限れば、政治的に無関心層が増えているとはいいがたい(図1)。

2. 支持政党=支持政党なしが4割、自民党3割、社会党1割、その他の野党1割という状況で、浮動層の大きさや自民党の相対的な安定など、現実の投票行動を見る思いがする(表5)。

3. 政党のイメージ=自民党はお金持ち、野党は魅力に乏しいというイメージが定着している。若者らしい直観力で、政党の性格を鋭くとらえている印象を受ける(表8)。

4. 政治家の知名度=政治家の中で、知名度がもっとも高いのは、レーガン大統領で、日本の首相は2位にとどまっている。しかしいずれにせよ、顔と名前はわかるが、その人の考え方はわからないが、ほぼ6~7割を占める(表9)。

5. 民主化の程度=日本はアメリカに次いで、民主的な国という評価が得られている。いろいろと問題はあるにせよ、まず良い社会という評価である(表11)。

6. 憲法について=現憲法を良いと感じている生徒は77%に達する(表12)。その他の項目についても、現憲法を肯定する割合は高く、憲法の精神が生徒たちの間で定着しているのが感じられた(表13)。

7. 政治家のイメージ=政治家は、金持ちかもしれないが、不正直で、思いやりに欠けるというようなイメージが定着している(図6)。

8. 政治家に対する社会的評価=職業についての社会的な尊敬度で第1位を占めたのは大学教授、2位は医師で、政治家はきわめて低い評価にとどまっている(表20)。社会的に尊敬されていない、なる気持ちもないというのが、政治家に対するイメージである。

9. 政治への参加=自分自身が政治に乗り出す、あるいは、他人の選挙を手伝う。いずれの場合にせよ、そうした行動をとっても良いと答える者の割合は1~2割にとどまっている(図5)。



① テーマの設定

なぜ、政治意識をとりあげたか



この「モノグラフ高校生'82」シリーズではさまざまな角度から、高校生の実像を紹介してきた。端的に言って、一連の調査をとおしてうきあがってきたのは、自分のフィーリングを大事にし、プライベートな生活を優先させる高校生像であった。

そうした高校生の姿に、公共心に欠ける、利己的すぎる、甘えの構造がみられるなど、批判の声が強い。確かに、一昔前の高校生とくらべ、現代の生徒たちがさまがわりしている事実は否定しがたい。しかし、あらためてふれるまでもなく、若者たちは常に新しい時代の先兵であった。そして、そうした新しい流れが、歴史を築いてきたのは、史実の示すとおりである。したがって、古い世代に属するわ

れわれには、わかりにくい長所を現代の若者たちが持っている可能性が強い。

そうした可能性を考えるためのひとつの手がかりとして選んだのが今回のテーマ、つまり、高校生の政治意識である。というのは、私的な領域に埋没しがちといわれる高校生たちが、仮りにある程度の社会的な関心を抱いているとするなら、私生活への傾斜は、若者の新しい風潮であって、非難するのは的はずれとなる。

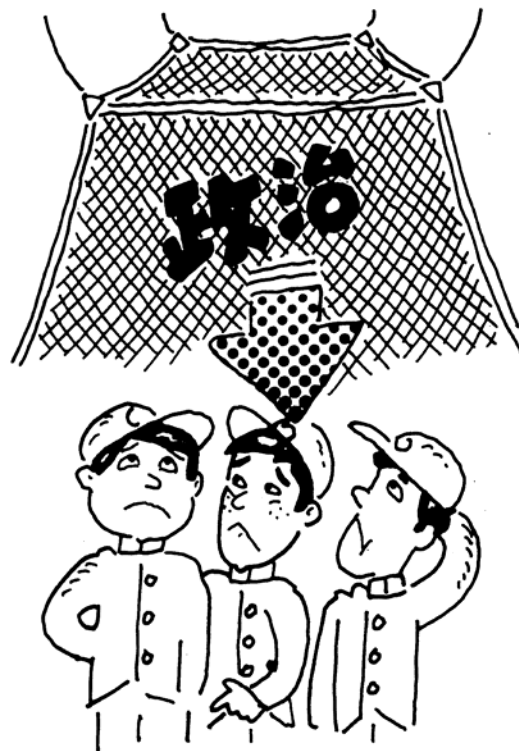
特に、高校生たちは、いずれ数年後には、選挙権を得て、これからの社会の担い手となる人たちである。したがって、高校生たちの政治意識のあり方は、10年後の社会の命運にかかわるといっても過言ではない。

しかし、どうしたことか、高校生を対象として政治意識を深った調査は、ほとんど未開拓の状況にある。そうした研究の立ち遅れにはさまざまな原因が考えられる。そのひとつは、かつての高校紛争などの苦い経験から、高校生を政治から遠ざけておいた方が無難というような判断が強まったためであろう。加えて、教育は政治的な中立を保つべしとの名分があって、学校が、政治から隔絶した聖域としての性格を保っている背景もある。

いずれにせよ、高校生たちは政治的な真空地帯に身を寄せている印象が強い。実をいうと、今回の調査実施にあたって20校に近い高校に協力を求めた。特に、デリケートなテーマなので、趣意書を添付して、事情の説明に努めたが、大半の高校から断りの返事をもたらした。調査票の中に、支持政党を尋ねた項目が含まれている点に難色を示した学校が多かったとき。

くり返しになるが、高校生たちは数年後に選挙権を持つ人たちである。そうだとすれば、知らしむべからずと真空地帯の中に閉じこめておくことが、市民社会の形成にとって望ましいとはいいがたい。むしろ政治について、さまざまな情報を与え、しっかりとした判断の持てる若者を育てることの方が重要であろう。

そうした状況の中で、調査に協力してくださった高校の先生方、そして、生徒諸君に心からお礼を述べたいと思う。調査結果は以下に紹介するとおりだが、少なくともいくつかの重要な点がはっきりしただけでも、調査に協力していただいたことは、無駄ではなかったと信じている。



2 政治についての関心



1. 投票行動の可能性

家庭を大事に生きていきたい

本調査のサンプル構成は、表1に掲げたとおりだが、政治意識に立ち入る前に高校生たちの一般的な意識を尋ねたのが表2である。

生徒たちの7割以上が同意している将来の生き方は、

- 1 結婚したら、夫の姓を名のる(78%)
- 2 結婚したら、夫に手作りの弁当を持たせたい(76%)
- 3 子どもの人数は、1～2人が望ましい(76%)
- 4 結婚したら、夫は家事を手伝わなくとも良い(70%)
- 5 上役に仕事を頼まれたら、日曜でも仕

事に出る(73%)

だという。このデータだけをとりあげると、意外と感じられる向きもおられようが、本モノグラフの「異性・結婚・家庭」(Vol. 4)で考察を加えたように、こうした結果は現代の高校生が平均的に抱えている家庭像である。

つきつめていうと、性差に対応した分業の形態をとりながら、夫婦が互いに助け合って家庭を築こうという考え方である。自分たちの家庭を大事に考える面では、マイ・ホーム傾向が目につくが、性差への対応が強いという意味では、むしろ伝統志向的な家庭像でもある。

しかし、ここでは高校生たちのそうした家庭観にくわしくふれるつもりはない。本サンプルが、特にかたよりをもった層でなく、家庭を大事に生きていきたいと考えている、ごく標準的な高校生であることを示す例証として、データを掲げたにすぎない。

そうした前提をふまえたうえで、以下、政治意識の分析に入ろう。政治意識をどうとらえるのかは難しいが、少なくとも投票行動が政治意識をとらえる際の重要な要素であることは確かであろう。

表1 サンプル構成

N = 1163

高 校	A校	389
	B校	386
	C校	388
学 年	高1 =	29.6%
	高2 =	32.9%
	高3 =	37.4%
性 別	男子 =	66.5%
	女子 =	33.5%

投票に行く気があるか

表2 将来の生き方

(%)

		A		B		
		ぜったい	まあ	ぜったい	まあ	
結婚したあとの二人の姓	A. 男性の姓を名のるのが自然	45.8	32.5	16.9	4.8	B. 別にどちらの姓を名のってもかまわない
		78.3		21.7		
夫の昼の食事	A. 好物を入れたお弁当を毎日つくってあげたい	29.0	46.9	18.1	6.0	B. 好きなものを外食してほしい
		75.9		24.1		
妻が38度ぐらいの熱を出したら	A. 夫は会社を休み、家において世話をする	20.0	31.4	37.5	11.1	B. 近所の人に世話を頼み、夫は会社へ行く
		51.4		48.6		
夫の家事手伝い(妻が家にいる場合)	A. 夫がサラリーマンでも夕食後の片づけぐらいは手伝うのが当然である	6.9	23.1	37.0	33.0	B. 夫がサラリーマンなら疲れて帰るのだから夕食後の片づけは、しなくてよい
		30.0		70.0		
日曜日、会社の上役から仕事を頼まれたら	A. 日曜日は原則として仕事をしないといっておく	10.8	15.9	60.1	13.3	B. 上役の頼みだから仕事に出かける
		26.7		73.4		
子どもの人数	A. 経済が許せば子どもは4~5人ほしい	7.7	16.8	49.9	25.6	B. 経済的な心配はなくても子どもは1~2人でよい
		24.5		75.5		

そこで、選挙権を持ってから後の初めての選挙、それから後の選挙とを具体例にあげ、投票へ行くかどうか尋ねてみた。結果は図1のとおりだが、

- 1 初めての投票へ行くと答えた者は、「たぶん」を含めると、6～7割に達する
- 2 投票する対象別では、国レベル、あるいは地方自治レベルとあまり大きな開きが認められず、むしろ地方レベルの選挙に関心を持っている傾向がうかがえる
- 3 その後の選挙についても、6割近い高校生が投票に行くつもりと答えている
- 4 「ぜったい棄権する」は1割程度で、そ

れに反し、「ぜったい行く」は、2割から3割強に達している
 などが主要な結果である。

もちろん、図1はあくまでも「投票へ行くつもり」かどうかを尋ねたのであって、投票行為そのものではない。したがって、6～7割の高校生が「たぶん、あるいは、ぜったい」投票をするとはいいがたい。しかし、若者たちの政治離れが叫ばれているわりには、政治への意識が予想外に高いような印象を受ける。

そこで、図1の選挙の中から国会議員と市長を選んで、投票に行く生徒の属性を分析すると、表3のとおりになる。

図1 選挙権の行使
 ——行くつもりが6割強——

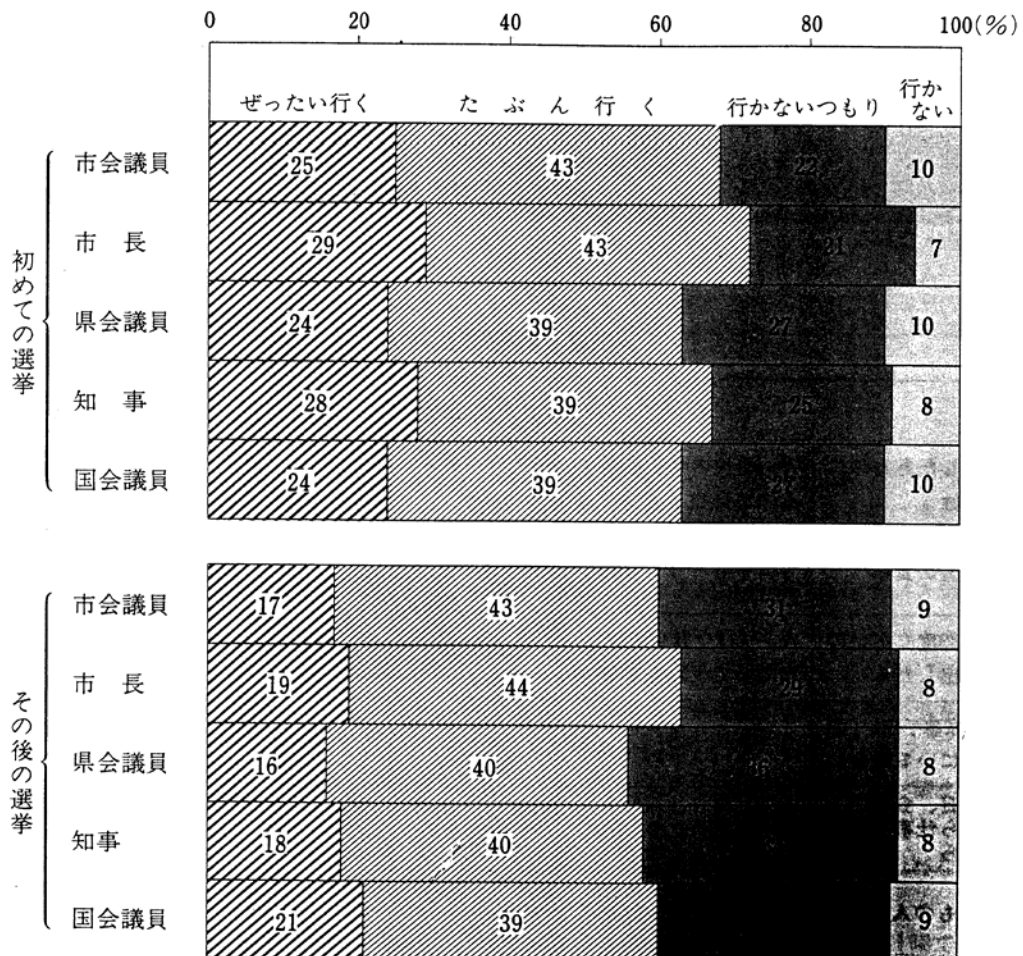


表3 投票行動×属性

(%)

投票行動		国会議員		市長	
		ぜったい行く (たぶん行く を含めて)	ぜったい行く (たぶん行く を含めて)	ぜったい行く (たぶん行く を含めて)	ぜったい行く (たぶん行く を含めて)
学 年	高 1	26.9	(63.7)	24.0	(69.2)
	高 2	36.5	(73.8)	32.4	(72.3)
	高 3	30.5	(67.7)	29.1	(71.4)
性	男子	34.8	(67.7)	30.5	(66.9)
	女子	24.6	(70.2)	25.1	(79.1)
数学の勉強	得意	32.3	(68.7)	29.4	(69.3)
	ふつう	36.2	(69.0)	31.3	(73.8)
	やや苦手	32.9	(74.8)	28.4	(77.5)
	苦手	25.5	(63.8)	25.5	(66.2)
スポーツ	とても得意	34.2	(75.0)	33.3	(80.0)
	やや得意	31.5	(72.8)	26.8	(73.6)
	ふつう	28.4	(68.1)	25.9	(69.1)
	苦手	30.0	(59.1)	23.9	(60.4)
がんばる力	とても得意	41.9	(66.7)	36.8	(78.4)
	やや得意	36.0	(71.0)	29.1	(77.1)
	ふつう	27.0	(65.6)	26.7	(74.1)
	苦手	21.4	(48.9)	21.4	(49.6)
(東大などの入学 生懸命がんばったら)	たぶん入れる	39.2	(63.7)	32.2	(63.7)
	なんとか入れる	35.0	(72.4)	30.1	(71.6)
	やや無理	42.0	(74.8)	36.1	(77.3)
	かなり無理	31.7	(78.5)	28.4	(77.9)
	とても無理	25.9	(64.0)	25.6	(69.1)



一票の意味

結果は必ずしもシャープではないが、全体としては、

- 1 学年別に着目すると、高1から高2へ進むにつれて、政治意識が高まってくるが、高3になると進学や就職などの関係からか、意識がにぶる傾向が認められる
- 2 男女別としては、男子に「ぜったい行く」が多く、女子にぜったいではなく、「たぶん行く」の占める割合が多い
- 3 自己評価に着目すると、全体として、自己評価の高い生徒ほど投票へ出かける割合が高く、評価が低くなるにつれて、投票にも消極的な態度をとり始める

などの傾向がみうけられる。

しかし、属性による開きは、表中の数値が示すように明確といいがたい。そうした原因に対する考察はもう少しのちにゆずり、結果の紹介をつづけよう。

もう一度図1に目をとおすと、4割、つまり半数近い生徒は、投票にぜったい行くとはいえないが、棄権するつもりもない。たぶん行くつもりというあいまいな態度を示していた。

考え方によっては、この4割の生徒たちが、成人してから投票へ行くかどうか、投票率の高低に関連すると思われるが、そのためには投票の意味、あるいは投票の効果を信じられることが必要であろう。しかし、表4に示したように、「投票をとおして世の中を良くすることができるか」の問いに対し、「まったく」の2割を含めて6割以上が「良くなるとは思わない」と答えている。

しかも、投票に対する信頼のなさは、学年が上がるにつれ、そして女子よりも男子に高まってくる。世の中がわかるようになるにつれて、一票の重みに疑問をもち始めるのであろうか。

そうした事情はともかく、仮りに、選挙権を行使するとしたら、生徒たちはどの政党へ一票を投じるのであろうか。

「投票へ行かない」の1割はともあれ、表5のように、「支持政党なし」が4割、残りの5

割の支持政党は、まず自民党、かなり水が
いて社会党、以下、共産、公明、民社がきび
すを接する形である。

選挙が行なわれるたびに、若者の政治離れ

と「支持政党なし」の浮動層の拡大、そして自
民党の相対的な安定が指摘されることが多い。
高校生を対象とした今回の調査でも、同じよ
うな傾向がみうけられ、実際の選挙結果の分

表4 投票で世の中を良くすることができるか

(%)

		そ う 思 う		思 わ な い	
		そう思う	まあ	あまり	まったく
サンプル平均		10.3	26.1	43.1	20.5
		36.4		63.6	
学 年	高 1	14.2	27.8	40.5	17.5
		42.0		58.0	
	高 2	9.1	26.3	44.4	20.2
		35.4		64.6	
	高 3	8.3	24.5	44.4	22.8
		32.8		67.2	
性	男 子	10.2	22.5	41.2	25.3
		32.7		66.5	
	女 子	9.2	33.1	47.2	10.5
		42.3		57.7	
数 学 の 勉 強	得 意	14.0	20.2	36.0	29.8
		34.2		65.8	
	やや得意	8.2	30.3	42.6	19.0
		38.5		61.6	
	ふつう	10.5	31.2	39.1	19.2
		41.7		58.3	
	やや苦手	7.2	27.5	50.9	14.4
	34.7		65.3		
	かなり苦手	13.2	21.5	50.7	14.6
		34.7		65.3	
	とても苦手	11.1	20.1	38.6	30.2
		31.2		68.8	

表5 支持政党

——半数が無関心——

(%)

	サンプル 全 体	学 年			性		
		高1	高2	高3	男子	女子	
投票へ行かない	10.0	10.1	10.4	9.7	10.2	9.8	
支持政党なし	40.4	44.6	37.4	39.2	35.0	50.7	
支 持 政 党 あ り	自民党	30.3	26.8	31.6	32.2	32.3	26.5
	社会党	8.0	7.1	8.6	8.0	8.8	6.1
	共産党	3.7	4.2	3.2	3.9	5.0	1.3
	公明党	2.7	3.0	2.4	2.7	2.8	2.4
	民社党	1.6	1.5	2.1	1.2	1.2	2.4
	その他の政党	3.4	2.7	4.3	3.1	4.7	0.8

付)「今、国会議員の選挙があって選挙権の行使ができるとしたら
どの政党の候補に投票しますか。」

なに党を支持するか

析をみる思いがした。

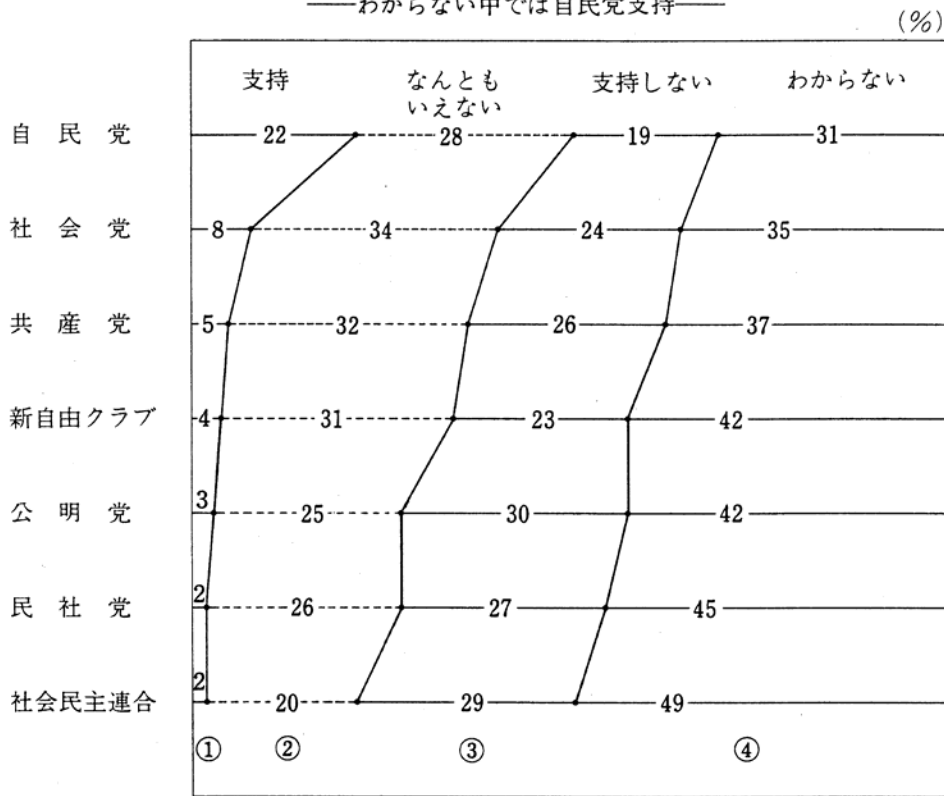
そこで、政党ごとの支持率を紹介すると図2のとおりになる。

まず、その政党の考え方が「わからない」が、自民党の3割からその他の政党の5割弱に達するのと、「支持するとも、しないともいえない」(図2中の②)が、2～3割を占めているのが注目をひく。

念のために、図2を整理し直すと、表6のようになる。どの政党にせよ、「わからない」や「やや支持」、「あまり支持しない」などの不

図2 政党への支持

——わからない中では自民党支持——



付)「次に政党の名前が書いてあります。あなたはそれぞれの政党の考え方をどれ位支持していますか。」

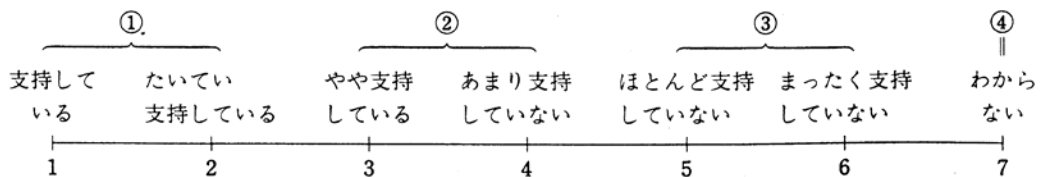


表6 政党への支持

—その中では自民党を支持—

(%)

	無 関 心 層			支 持 層 (A)		不 支 持 層 (B)		A/B
	わ か ら な い	や や 支 持	支 持 し な い あ ま り	支 持	支 持 た い て い	支 持 し な い ほ と ん ど	支 持 し な い ま っ た く	
自民党	30.1	16.0	12.4	8.0	14.2	8.4	10.9	1.15
	58.5			22.2		19.3		
社会党	35.0	14.8	18.9	2.3	5.3	10.1	13.6	0.32
	68.7			7.6		23.7		
共産党	36.1	8.2	13.6	2.3	2.7	11.8	24.5	0.14
	57.9			5.0		36.3		
新自由クラブ	42.0	14.0	15.5	2.3	3.0	10.6	12.5	0.23
	71.5			5.3		23.1		
公明党	42.2	7.6	17.4	1.4	1.6	12.4	17.4	0.10
	67.2			3.0		29.8		
民社党	44.5	9.1	17.2	0.7	1.7	11.9	14.9	0.09
	70.8			2.4		26.8		
社会民主連合	49.0	8.0	13.8	0.8	0.6	11.3	15.5	0.05
	70.8			1.4		26.8		

表7 政党支持者の属性

(%)

		自 民 党			社 会 党		
		支 持	不 支 持	無 関 心	支 持	不 支 持	無 関 心
学 年	高 1	19.4	18.8	61.8	4.7	23.5	71.8
	高 2	25.9	18.4	55.7	9.8	23.2	67.0
	高 3	21.2	20.7	58.1	7.7	24.3	68.0
性	男 子	25.0	21.9	53.1	9.1	26.3	64.6
	女 子	16.6	14.6	68.8	4.4	18.5	77.1
学 業 成 績	とても得意	22.4	23.2	54.4	12.1	21.6	66.3
	やや得意	23.8	22.2	54.0	7.6	26.2	66.2
	ふつう	24.4	13.1	62.5	4.9	22.5	72.6
	やや苦手	17.1	21.6	61.3	6.3	23.4	60.3
	かなり苦手	25.5	14.5	60.0	9.0	15.8	75.2
	とても苦手	21.1	23.8	55.1	9.5	28.6	61.9

確定層が6～7割に達する。端的に言って、政党の考え方がわからない生徒が、半数を超える。そうした中で、支持層(A)が不支持層(B)を上まわっているのは自民党のみで、そ



他の社会党や新自由クラブなどは不支持層が支持層の3倍を上まわっている。

政党のことはわからないが、その中では、

政権政党である自民党だけはわかりにくいながら支持できるような気がするというのである。

なお、自民党と社会党に例をとって、政党支持を支える属性分析の結果を表7に示した。学業成績とのクロス集計からもうかがえるように、支持政党との間に有意な差が認められない。実をいうと、この他にも何本かのクロス集計を行なってみた。

一般に、中学生や高校生を対象にした調査を実施する際、学業成績やスポーツの得意さ、そしてがんばりなどの自己評価に注目して、分析を進めることが多い。交友関係や進路、将来の生き方、結婚観などの意識がそうした自己評価により規定されている場合が少なくないからである。なかでも学業成績が生徒たちの気持ちをとらえる際の鍵のような役割を果たしていることが多い。しかし今回の政治意識については、そうした属性による分析は有意の差を示さなかった。したがって、今後政治意識の分析を進めるためには、両親の学歴や職業、経済水準などの家庭的な要因の他に、リーダーシップの有無、流行への感じ方、金銭観、好きな音楽など、本人の意識を加えた総合的な接近の仕方が必要となるように思われてならない。

2. 政治に対する認識

政党のイメージ

選挙があれば投票に行くつもりだ。しかしこれといった支持政党はなく、その中では自民党支持が相対的に多いというのが、いままでの調査結果であった。

投票をするのは市民としての義務であると同時に、大事な権利だ。だから、投票には行く。そうしたたてまえからの反応であって、その実質は空虚という印象を受ける。

そこで、4つの政党についてのイメージを尋ねてみた。結果は、図3に示したとおりである。これをわかりやすい形で、さらに要約

図3 政党のイメージ(1)

——どの政党も魅力に乏しい——

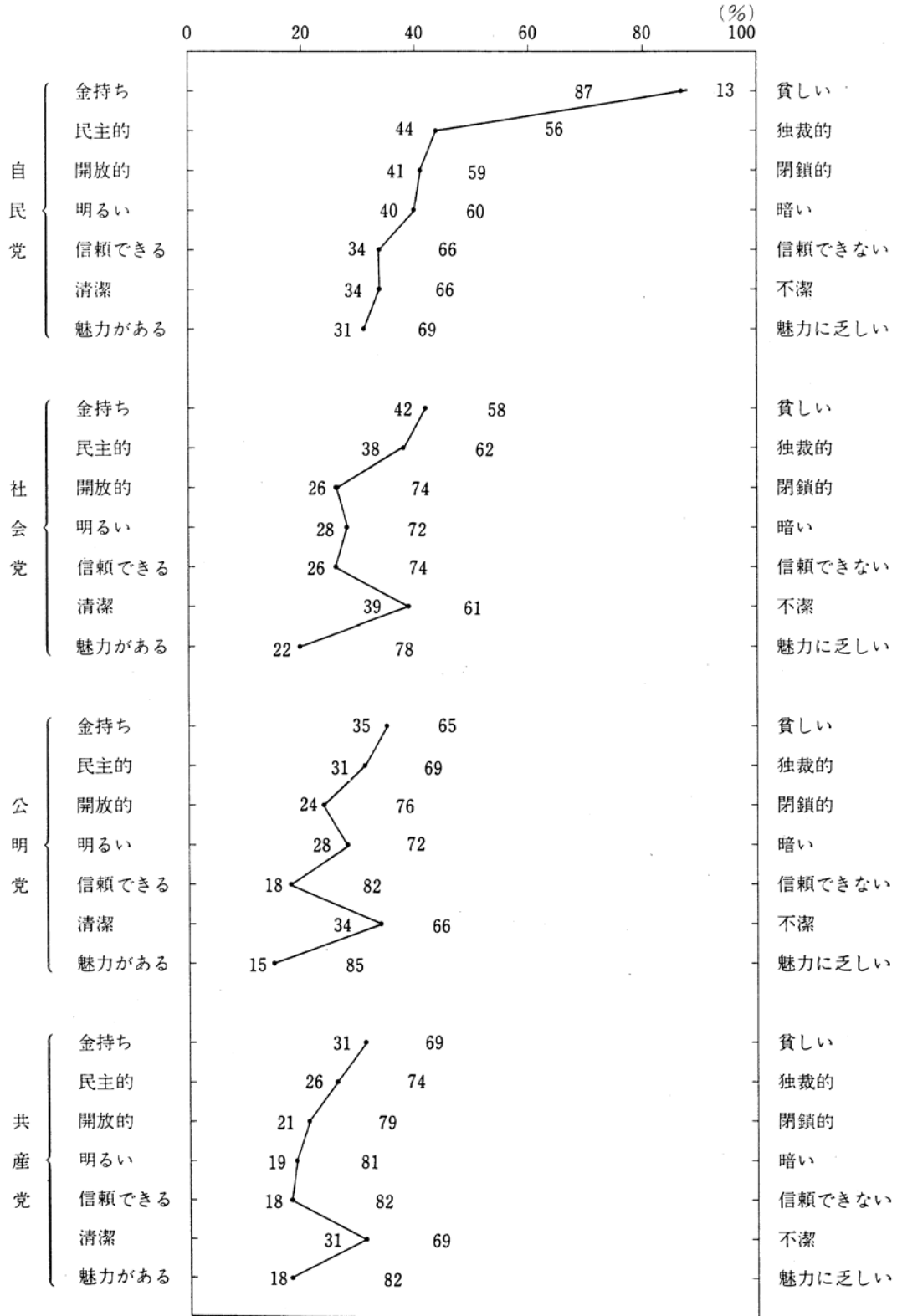


表8 政党のイメージ(2)

——自民党は金持ち、社会党は個性なし、公明・立産党は信頼できない—— (%)

	80%以上	75~79%	70~74%	65~69%
自民党	金持ち (87)			魅力に乏しい(69) 信頼できない(66) 不潔 (66)
社会党		魅力に乏しい(78)	閉鎖的 (74) 信頼できない(74) 暗い (72)	
公明党	魅力に乏しい(85) 信頼できない(81)	閉鎖的 (76)	暗い (72)	独裁的 (69) 不潔 (66) 貧しい (65)
共産党	魅力に乏しい(82) 信頼できない(82) 暗い (81)	閉鎖的 (79)	独裁的 (74)	貧しい (69) 不潔 (69)

したのが表8になる。75%以上の生徒が「そう思っている」に着目して、表8をさらに簡略化するなら、

自民党＝金持ち

社会党＝魅力に乏しい

公明党＝魅力に乏しいうえに、閉鎖的で
信頼できない

共産党＝魅力に乏しいうえに、閉鎖的で
信頼できないし、暗い

となる。

戦後まもない頃の連立政権を除いて40年近く、自民政権がつづいている。アメリカのカーターからレーガンへに象徴されるように、この間欧米では、政権の交替がみられた。そうした意味では、日本は政治情勢に限っていうと、異例の形態がつづいている。そうした要因のひとつとして、野党の魅力のなさが説かれることが多い。

高校生たちの政党イメージは、そうした状況を直観的に見抜いた反応のように思えて興

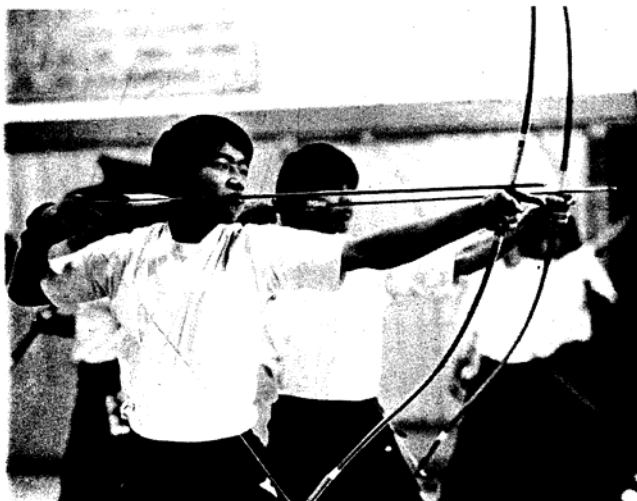


表9 政治家の知名度

—知っているのは名前と顔だけ—

(%)

	名前を 知っている	顔を 知っている	人柄を 知っている	キャリアを 知っている	考え方を 知っている
アメリカの大統領	① 96.5	① 95.0	① 38.5	① 28.5	① 35.1
日本の首相	② 95.2	② 93.6	② 36.0	② 22.7	② 24.2
イギリスの首相	③ 87.4	③ 79.5	④ 16.2	⑦ 10.9	④ 12.2
(地元の)市長	④ 66.6	④ 56.9	⑤ 14.9	⑤ 11.5	⑪ 7.5
(地元の)知事	⑤ 60.6	⑤ 51.5	⑧ 10.0	⑧ 10.4	⑥ 9.9
日本の蔵相	⑥ 54.0	⑥ 49.8	③ 27.1	④ 11.7	③ 12.5
フランスの大統領	⑦ 50.6	⑩ 38.5	⑪ 6.3	⑪ 5.9	⑤ 10.1
社会党党首	⑧ 50.0	⑨ 41.5	⑨ 8.7	⑨ 8.9	⑧ 9.5
(地元の)国会議員	⑨ 48.9	⑦ 44.0	⑦ 12.5	③ 13.2	⑦ 9.6
(地元の)市会議員	⑩ 48.8	⑧ 42.7	⑥ 14.2	⑥ 11.5	⑫ 7.5
日本の外相	⑪ 44.6	⑪ 37.4	⑩ 7.2	⑩ 7.8	⑩ 7.6
ソビエトの首相	⑫ 35.3	⑫ 28.3	⑬ 5.5	⑭ 4.1	⑨ 8.3
公明党の党首	⑬ 32.8	⑬ 28.2	⑭ 5.5	⑬ 4.3	⑬ 7.2
(地元の)県会議員	⑭ 30.1	⑭ 24.5	⑫ 5.6	⑫ 5.6	⑭ 4.3
日本の文相	⑮ 26.1	⑮ 21.6	⑮ 4.5	⑮ 4.0	⑮ 5.1
平均	55.2	46.4	14.2	10.7	11.4

注) ○は順位

味深い。自民党に限らず、社会党、共産党についてのイメージもなんとなく的を射ている思いがする。

それでは生徒たちは、個々の政治家をどの程度知っているのだろうか。表9に掲げたように、国の内外、そして国レベルあるいは、

地方レベルの政治家をあげ、その人の①名前、②顔、③人柄、④キャリア、⑤考え方を知っているかどうか尋ねてみた。

まず、全体の傾向をみるために15の政治家についての平均値を計算してみると、

- 名前を知る 55.2%
- 顔を知る 46.4%
- 人柄を知る 14.2%
- キャリアを知る 10.7%
- 考え方を知る 11.4%

となる。つまり、政治家を知る手がかりは、まず名前を覚えること、次いで顔を覚え、そ

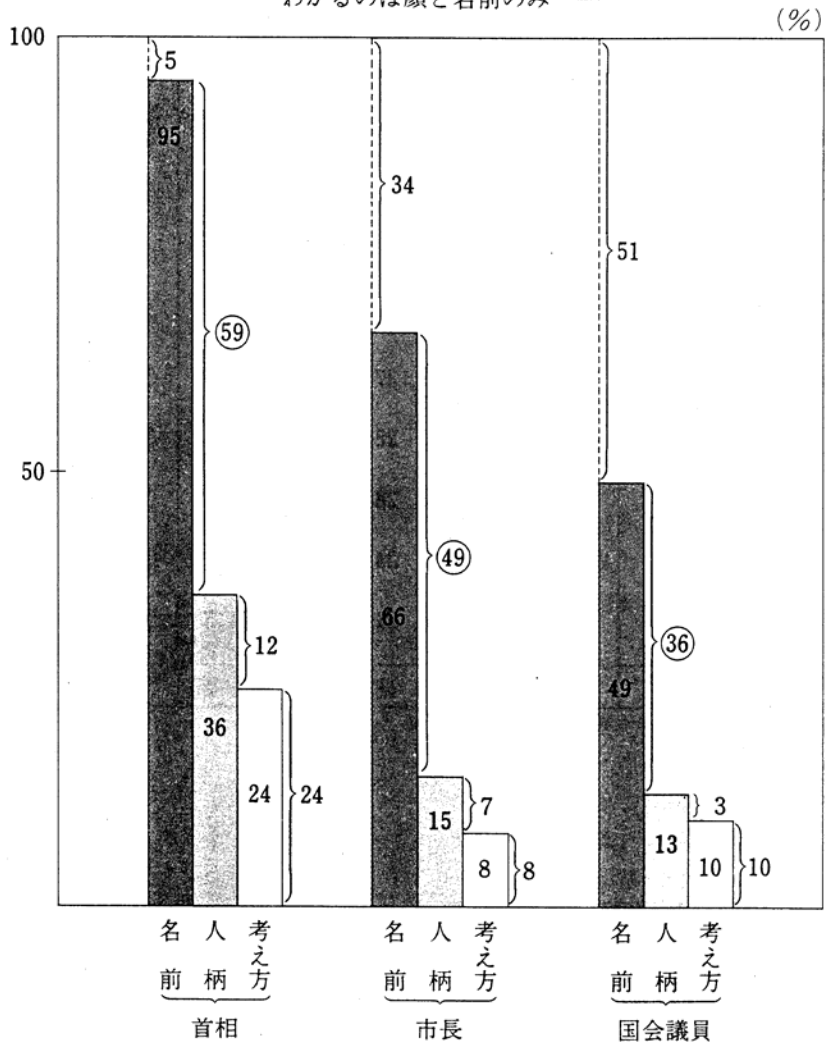
の後で人柄を知り、そしてキャリアや考え方がわかるようになるという過程をたどる。

いままで知名度が必要なのは、タレントなどに限られていると思っていた。しかし、現代のような情報化社会のもとでは、政治家も名前を覚えてもらうことが、なにより必要な時代を迎えたい。

そして知名度という面では、皮肉なことに、もっとも知られているのが、アメリカの大統領、以下、日本の首相、そしてイギリスの首相がつづく。これらのベスト3と、少し水をあけられた形で地方自治体の長の名前がみられ

図4 政治家の知名度

——わかるのは顔と名前のみ——



る。それに反し、野党の党首や議員などの知名度は5割以下にとどまっている。

各県の知事選挙などで、現職が多選を果たすことが多い。しかし、表9のデータを手がかりにすると、知名度という点から考えても、現職が圧倒的に優位なのはわかるような気がする。

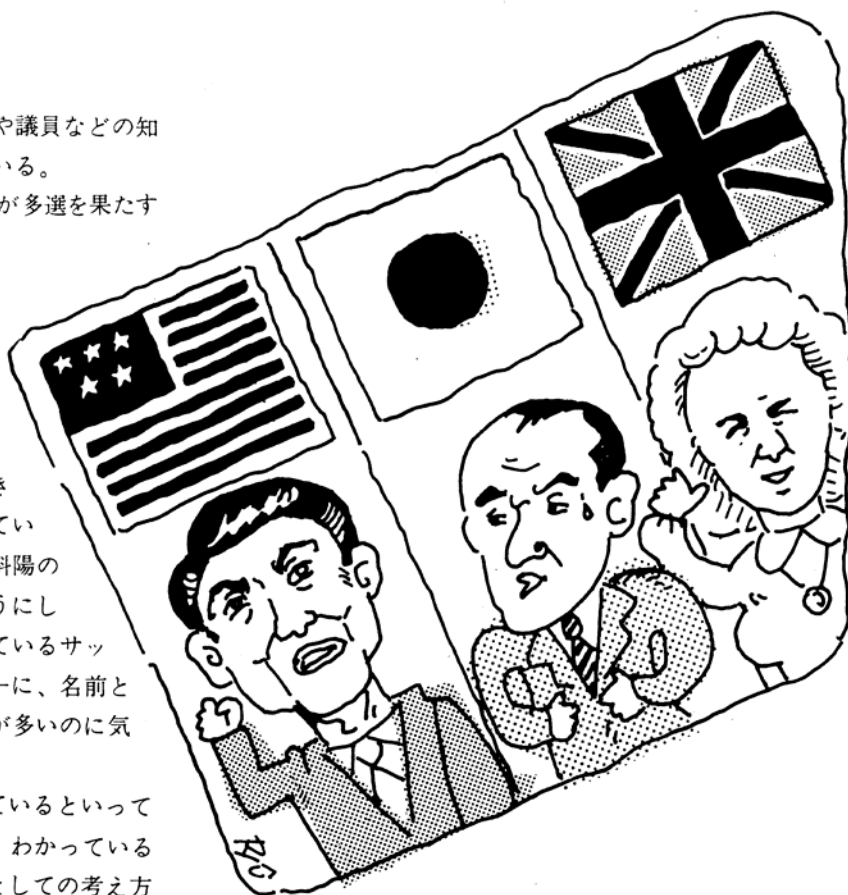
そう考えていくと、俳優出身で、タカ派、そして派手好きなど、人目をひく条件をもっているレーガン大統領、あるいは斜陽のイギリスを率いる鉄人、というにしては女性としての魅力を持っているサッチャー首相など外国のリーダーに、名前と顔を覚えやすい個性の持主が多いのに気づく。

もっとも、名前と顔を知っているといっても、図4のようにその実質は、わかっているのは名前と顔のみで、政治家としての考え方や人柄はまったくわからないという状況がうかんでくる。表9の数値から「知らない」を除き、名前を知っている者を100として、その中で名前と顔のみはわかるの割合を示すと、

日本の首相	61.5%
地元の国会議員	70.0%
地元の知事	79.8%
地元の市長	73.8%

のとおりとなる。つまり、ある政治家を知っているといっても名前と顔のみの占める割合が6～7割で、考え方やキャリアなど、政治家としての内容を知っている割合は3～4割にとどまっている。

こうした状況は、高校生に限られてはいない。われわれおとなにしたところで、政治家を知っているといっても、声や表情だけを頼りに政治家としての考え方を判断しているのが実情であろう。そうしてみると、政治家について高校生たちのくだした感じ方は、成人についてもあてはまるように考えられる。



政治についての態度



1. 民主化の程度

日本は民主的な国か

いままでの考察を要約しようとする、大衆社会状況の中での政治という用語がうかんできく。テレビで見かけることの多い政治家の名前だけは知っているが、その他はイメージとして、なんとなく感じているにすぎないからである。

もっとも、われわれひとりひとりが首相はむろん、知事や市長に時間をかけて話をきく機会をとれるわけがないから、こうした状況もある程度やむをえない気持ちもする。

しかし、日本の社会そのものが不安定で、不安を感じさせるようなら、そう楽観的なこともいえないかもしれない。そこで、いくつ

表10 日本の政治は民主的か

—半信半疑の気持ち—

(%)

		民主的だと思う		民主的だと思わない	
		そう思う	まあ	あまり	まったく
サンプル平均		5.6	38.3	41.1	15.0
		43.9		56.1	
学 年	高 1	2.4	36.8	41.3	19.5
		39.2		60.8	
	高 2	5.4	37.6	43.3	13.7
		43.0		57.0	
	高 3	8.5	39.8	39.1	12.6
		48.3		51.7	
性	男 子	6.6	38.3	37.4	17.6
		44.9		55.0	
	女 子	3.7	38.0	48.7	9.6
		41.7		58.3	
一 流 大 を 受 け た ら	とても無理	5.4	38.5	43.0	13.1
		43.9		56.1	
	かなり無理	5.9	36.8	45.1	12.3
		42.7		57.4	
	やや無理	5.0	41.7	44.2	9.2
		46.7		53.4	
	なんとかなる	3.3	41.7	36.7	18.3
		45.0		55.0	
	多分入れる	9.2	35.2	26.8	28.9
		44.4		55.7	
が ん ば る 力	とてもある	12.1	30.2	28.4	29.3
		42.3		57.7	
	かなりある	9.9	33.3	43.2	13.6
		43.2		56.8	
	ややある	6.2	40.5	44.1	9.2
		46.7		53.3	
	ふつう	4.0	44.6	39.8	11.6
		48.6		51.4	
	ややない	3.4	36.8	47.7	12.1
		40.2		59.8	
	かなりない	3.8	46.2	38.5	11.5
		50.0		50.0	
	とてもない	5.3	26.7	41.2	26.7
		32.0		67.9	

表11 民主化の程度

— 1位アメリカ、2位日本 —

(%)

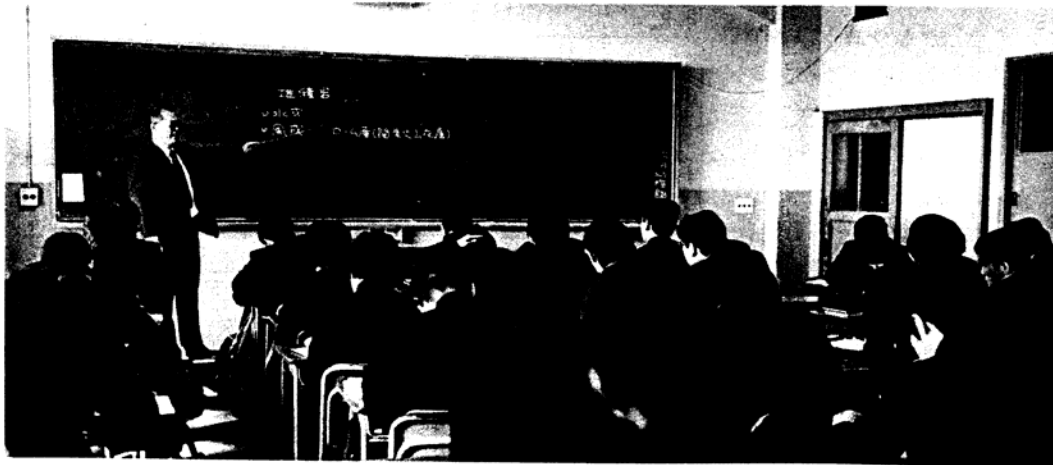
	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	\bar{x}
アメリカ	51.3	21.9	9.2	5.2	3.3	2.5	4.2	2.4	2.23
日本	22.4	26.6	20.1	17.2	4.6	3.0	3.1	3.0	2.92
イギリス	11.4	26.5	31.1	18.8	6.7	3.2	1.6	0.6	3.02
フランス	7.5	15.1	23.4	32.9	11.7	6.0	2.9	0.5	3.58
フィリピン	1.6	2.7	5.0	11.2	35.4	22.3	13.7	8.0	5.38
中国	5.7	5.6	6.0	5.7	14.2	24.2	33.7	4.8	5.48
韓国	1.0	2.4	6.1	7.3	16.5	31.0	24.2	11.6	5.84
ソビエト	2.7	2.0	1.9	4.3	5.0	4.9	13.1	66.0	7.04

注) \bar{x} は順位の平均

かの項目を使って、日本の社会についての評価を求めてみた。

まず、表10はきわめて一般的な形で、「今の

日本の政治は民主的だと思いますか」と尋ねた結果を示している。「とても民主的」とは思えないが、かといって「まったく、民主的でな

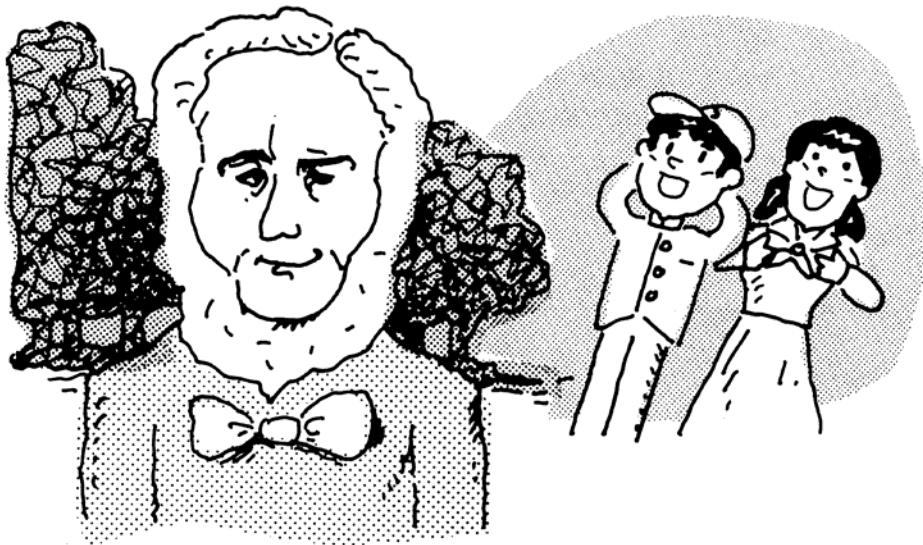


い」ともいえない。まあ、4対6くらいの割合で、あまり民主的といいにくい気持ちがあるというのが、標準的な反応のように思える。

そうかといって、生徒たちは、日本が民主的でないとは考えていないらしい。

表11に目をとおしてほしい。これは日本も含めてアメリカや中国などの国名を8つあげ、民主的だと思う順に、順位をつけさせた結果である。

アメリカの場合、8か国の中で、一番民主



的と答えた割合が51%、2位が22%、3位が9%で、3位までにアメリカの名をあげた生徒が82%を占める。以下、民主的な国の2位に日本、3位にイギリス、そして、フランスが並ぶ。

そして、もっとも民主的でない国として、ソビエト、韓国、中国などの名前があげられている。

この調査では、枚数の関係からそれぞれの国に対する評価がどこから生じたのかを探る手がかりを得ることはできなかった。しかし、日本の位置はともかくとして、アメリカをトップに、ソビエトが最下位に位置する民主化の序列は、なんとなくわかるような気がする評価である。若者らしい直観からなのであろうか。生徒たちは予想以上に、正確に世の中を見ている印象を受ける。

2. 憲法についての感じ方

憲法を良いと思うか

現代の日本の大枠は、憲法に規定されている部分が多い。それだけにおりるごとに憲法改正や、護憲が政治的な運動の争点となる。

そこで、あらためて憲法についての評価を尋ねてみた。表12に示したように「とても良

表12 憲法について
— 4分の3は現憲法を良いと思っている —

		良いと思う		良くない	
		良 い	まあ良い	あ まり	と ても
サンプル全体		25.2	51.7	17.3	5.8
		76.9		23.1	
男 子	高 1	26.4	41.7	19.0	13.0
		68.1		32.0	
	高 2	20.2	51.0	24.9	3.9
		71.2		28.8	
	高 3	29.2	48.6	14.4	7.7
		77.8		22.1	
女 子	高 1	20.2	61.3	16.8	1.7
		81.5		18.5	
	高 2	27.0	55.7	15.7	1.7
		82.7		17.4	
	高 3	27.1	63.2	8.3	1.4
		90.3		9.7	

い」の25%を含めて、4分の3以上の生徒たちが今の憲法は良いと答えている。しかも、高1、高2、高3と年齢が高くなるにつれて、つまり、社会についての認識が深まるにつれて憲法の良さを認める傾向がみうけられる。また、男子より女子に、現憲法肯定派が1割程度多い。

さらに、表13は憲法論議がかわされるときに争点となることの多い「憲法は押しつけた」、それとも「作られ方はともあれ、憲法の精神は

表13 憲法は押しつけか自主的なものか

—— 4分の3は護憲派 ——

(%)

		A 今の憲法はアメリカから押しつけられたものだから改正すべきだ		B 作られ方はともかく今の憲法は良い憲法だからこのまま守るべきだ	
		A	まあ A	B	まあ B
		8.3 17.6 25.9		44.7 29.4 74.1	
男 子	高 1	13.7 17.5 31.2		37.4 31.3 68.7	
	高 2	7.2 23.9 31.1		42.6 26.3 68.9	
	高 3	12.1 15.4 27.5		36.6 35.9 72.5	
女 子	高 1	7.1 13.4 20.5		55.4 24.1 79.5	
	高 2	0 19.6 19.6		56.3 24.1 80.4	
	高 3	2.8 11.3 14.1		57.0 28.9 85.9	



良いのだから、それを守るべきだ」との意見を対で示して、どちらの考え方を支持するかを尋ねた結果である。

これも表12と同じように、ほぼ4分の3の生徒が現憲法の成立した経過はともあれ、憲法の精神を守るべきだという意見に同意を示している。

もちろん、表12、表13は憲法について学校で習った知識を正直に答えただけなのかもしれない。しかし、いままでの調査結果では、

表14 憲法改正

—憲法改正には反対—

(%)

改正内容	反 対		賛 成		わからない
	ぜったい	かなり	かなり	とても	
言論の自由を制限	82.3	10.3	3.0	2.4	2.0
	92.6		5.4		
徴兵制	80.0	10.2	3.2	3.2	3.3
	90.2		6.4		
男女平等をやめる	64.2	17.3	5.2	7.2	6.2
	81.5		12.4		
軍隊をつくる	60.5	19.0	8.9	6.1	5.6
	79.5		15.0		

生徒たちは予想外に自分たちなりに政治を見つめようとしている態度を明らかにしていた。そうだとすると、憲法についての理解も生徒たちの本心を吐露したものと読みとる方が妥当のように考えられる。

事実、表14から明らかなように、基本的な人権の無視や徴兵制の実施などについては、「かなり」も含めて8～9割が反対の態度を表明している。これまでの調査結果の中で、どちらかという、「かなり」など、あいまいな

反応の多かった高校生には、めずらしいくらいはっきりと「ぜったい」反対だという反応が目につく。



3. 政治への関与

政治への関心

もちろん、口で反対したからといって、それがなんらかの意味で、投票行動のような意志表明と結びついていないのだとしたら、口先だけの反対にすぎなくなる。

そこで、あらためて政治に対する関与の仕方が問題になる。

表15は、さまざまな形での政治的な関心を調べた結果をひとつの表にまとめたものである。全体の傾向を要約すると、①政治に関心を持っていない(63%)し、②友だちの間で政治のことが話題になることは少ない(77%)、しかし、③テレビのニュースはだいたい見ている(48%)し、④新聞の政治欄もときどき目をとおしている(33%)つもりだ、のとおりと



なる。

つまり、積極的な関心を持っているといえないが、最低限の関心だけは寄せているというあたりが、高校生の平均的なプロフィールのように見える。

表15 政治への関心

—情報には接している—

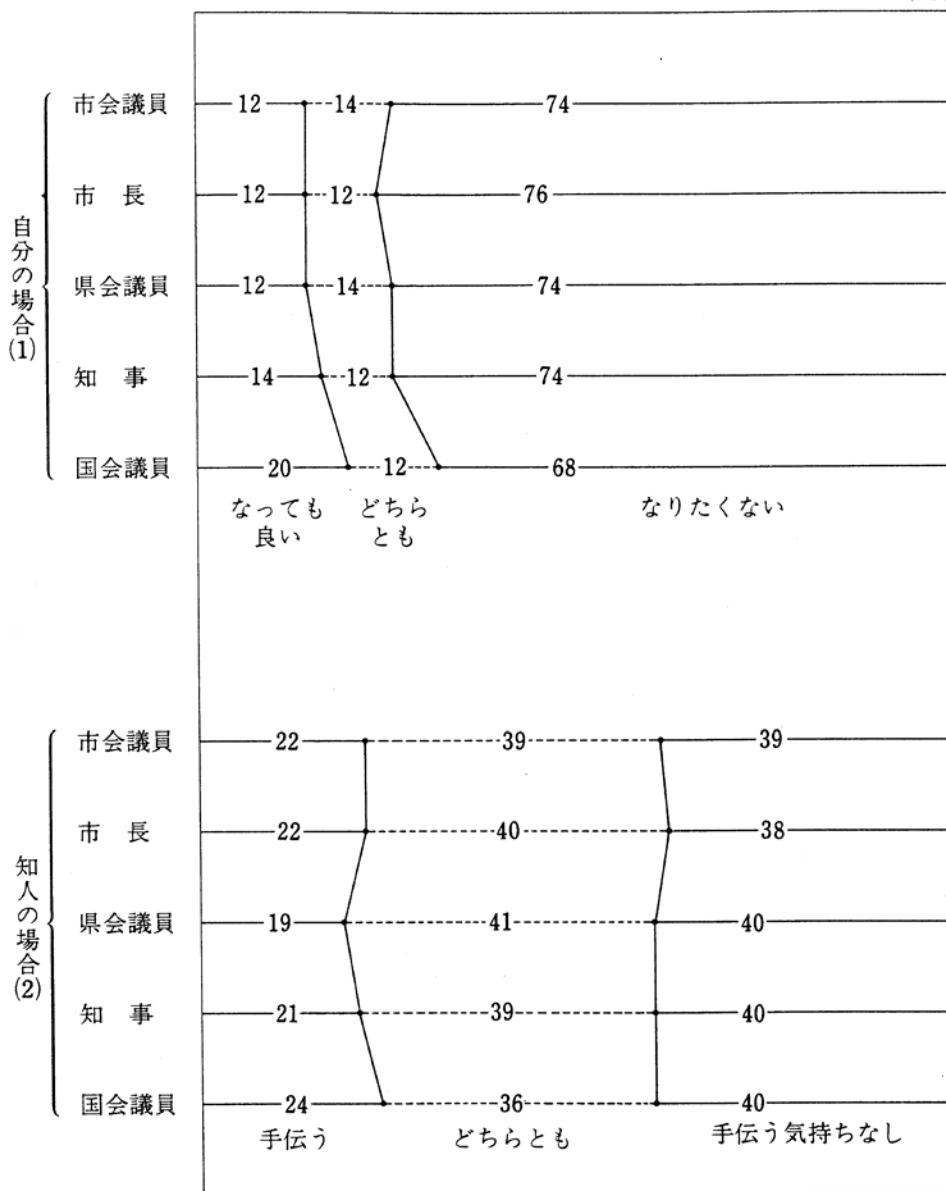
(%)

新聞の政治欄	読む		たまに 読む	読まない		
	いつも	ときどき		めったに	まったく	
	11.0 32.8 43.8		29.6	21.0 5.6 26.6		
テレビのニュース	見る		ときどき 見る	見ない		
	いつも	たいてい		ほとんど	まったく	
	11.3 47.9 59.2		32.5	6.7 1.6 8.3		
家族の間で政治が	話題になる		ときどき なる	話題にならない		
	いつも	かなり		めったに	まったく	
	3.4 7.7 11.1		45.2	30.3 13.3 43.6		
友だちの間で政治が	話題になる		ときどき なる	話題にならない		
	いつも	かなり		めったに	まったく	
	2.2 2.0 4.2		19.1	42.9 33.9 76.8		
政治への関心	持っている			持っていない		
	とても	かなり	やや	とても	あまり	ぜんぜん
	5.3 6.6 25.6 37.5			12.3 29.2 21.0 62.5		

図5 政治への参加

——政治へ参加する気持ちは弱い——

(%)



付) (1) 自分の場合＝「将来仲間や知人から推されたら、あなたは次のような議員や長になってみたいと思いますか。」

(2) 知人の場合＝「将来仲間や知人の中に政治家として出馬して欲しい人がいたら、あなたは次のような選挙の場合、選挙運動を手伝うつもりがありますか。」

政治家になる気はあるか

そこでもう少し積極的に、政治に関与しようという気持ちがあるかどうかを尋ねようとしたのが、図5である。

設問文は注記したとおりだが、誰か良い人がいたときに、その人に政治家になってもらうために運動に参加するつもりがあるか(間接参加)、そして自分自身の場合だったらどうするか(直接参加)とを尋ねた結果である。

市議員や知事、国会議員など、対象による開きはそれほど認められないが、

知人の選挙 (間接参加)	手伝う気はない…39%
	場合による……………39%
	手伝う……………22%
自分の場合 (直接参加)	なりたくない…73%
	どちらでも……………13%
	なってもよい…14%

のように、積極的に「手伝う」あるいは「なってもよい」は1～2割にとどまっており、ほぼ8割は自分としては関与したくないと答えている。

政治は誰かがしてくれるもので、自分やまわりの人がやるのは面倒くさいというのであろうか。そこで、自分の場合、市長と国会議員に例をとって「なってもよい」と思っている生徒の属性を分析すると、表16のような結果が得られる。表中の小計の欄から明らかなように、女子より男子の方が、そしてがんばる力があると自覚している者、あるいは、やる気のなさを自認している者に政治家になっても良いと考えている者が多いが、その差は必ずしもシャープとはいいがたかった。

表16 されたら政治家になる気があるか

(%)

			なりたい		どちらとも		なりたくない	
			ぜひ	できたら	ややなりたい	ややなりたくない	あまり	ぜんぜん
市長	学年	高 1	4.5	5.8	5.0	5.8	18.4	60.5
			10.3		10.8		78.9	
		高 2	10.9	3.7	5.9	6.6	17.8	55.1
		14.6		12.5		72.9		
	高 3	5.8	4.8	6.2	7.2	16.4	59.6	
		10.6		13.4		76.0		
	性	男子	10.2	6.7	7.9	8.5	20.4	46.3
			16.9		16.4		66.7	
	女子	0.8	1.0	1.5	2.8	11.6	82.2	
		1.8		4.3		93.8		
	がんばる力	ある	15.5	4.3	6.9	4.3	13.8	55.2
			19.8		11.2		69.0	
ややある		5.6	3.6	6.6	6.1	22.3	55.8	
		9.2		12.7		78.1		
ふつう		4.7	4.7	4.1	6.7	16.3	63.5	
		9.4		10.8		79.8		
ややない	4.0	6.8	7.9	9.0	19.8	52.5		
	10.8		16.9		72.3			
ない	13.6	6.1	3.8	6.1	12.9	57.6		
	19.7		9.9		70.5			
国会議員	学年	高 1	8.8	7.3	6.1	3.8	16.1	57.9
			16.1		9.9		74.0	
		高 2	13.6	9.0	7.2	5.9	12.8	51.6
		22.6		13.1		64.4		
	高 3	14.3	6.5	5.8	6.2	13.9	53.3	
		20.8		12.0		67.2		
	性	男子	17.6	10.6	7.9	6.7	16.0	41.3
			28.2		14.6		57.3	
	女子	2.3	1.5	3.4	2.8	10.6	79.4	
		3.8		6.2		90.0		
	がんばる力	ある	20.7	4.3	9.5	2.6	12.1	50.9
			25.0		12.1		63.0	
ややある		9.6	8.1	8.6	6.1	15.7	51.8	
		17.7		14.7		67.5		
ふつう		8.5	7.5	5.7	4.1	14.8	59.3	
		16.0		9.8		74.1		
ややない	10.7	9.6	5.1	7.3	17.5	49.7		
	20.3		12.4		67.2			
ない	23.5	7.6	3.8	5.3	7.6	52.3		
	31.1		9.1		59.9			

④ 政治家を見つめる目



1. 政治家のイメージ

政治家とはどんな人なのか

いままでふれてきたように、若い人たちに政治に対する無関心派が増えているといわれているにせよ、高校生は民主主義や憲法への感じ方、政党に対するイメージなどの面で、予想以上にシャープな反応を示した。しかし、そうした反面、自分自身が政治に関与することについては、きわめて消極的な反応を示した。

ある程度まで関心を寄せているのに、政治への参加となると、なぜ、ちゅうちょする者が多いのか。そこで、政治家についてのイメージを尋ねることにした。

表17は、政治家になった人の高校時代を推

表17 政治家の高校時代

—勉強は良くできたが、仲間からの信頼はいまひとつ—

(%)

成績	上		中		下	
	トップ	上	中ノ上	中	中ノ下	下
国語	29.4	33.4	14.5	12.5	2.9	7.4
	62.8		27.0		10.3	
英語	26.2	31.8	14.4	13.2	5.2	9.2
	58.0		27.6		14.4	
数学	20.9	31.0	16.3	16.0	6.4	9.5
	51.9		32.3		15.9	
信頼	ある		ふつう		ない	
	とても	かなり	ややある	ややない	かなり	とても
先生からの信頼	20.7	33.2	27.9	7.2	3.2	7.7
	53.9		35.1		10.9	
仲間からの人気	8.7	20.4	29.0	16.0	8.6	17.3
	29.1		45.0		25.9	
種類	得意		ふつう		苦手	
	とても	かなり	やや得意	やや苦手	かなり	とても
スポーツ	2.9	5.8	21.8	29.7	15.6	24.2
	8.7		51.5		39.8	
遊び	15.8	11.4	17.0	20.5	13.0	22.3
	27.2		37.5		35.3	

定させた結果を示している。ひとことでいって、高校時代勉強は良くできたし、先生から信頼されていたかもしれないが、仲間からあまり信頼されず、スポーツもやや苦手な者が政治家を志したという反応である。

やや誇張したいい方をするなら、頭は良いかもしれないが、仲間として信頼できないというのが政治家になった人の高校時代となる。

政治家に対する評価をもう少し具体的に尋ねてみよう。「国会議員にはいろいろな人がいると思いますが、平均するとあなたは国会議員にどんなイメージを抱いていますか」の設問で、9対の項目を示して、イメージをとらえたのが表18である。



これをさらにわかりやすい形で要約したのが、図6(P.38)である。数値の高い方から順にイメージの固まった項目をあげれば、①不正直(92%)で、②金持ち(92%)、③思いやりに欠け(87%)、④頭がよく(74%)、⑤外交的(72%)などとなる。逆ないい方をすれば、政治家に縁がないのが、正直と、貧しさ、思いやりとなる。

政治家になった人の高校時代と同じように、頭が良いとは思うが、不正直で思いやりに欠

表18 政治家のイメージ

(%)

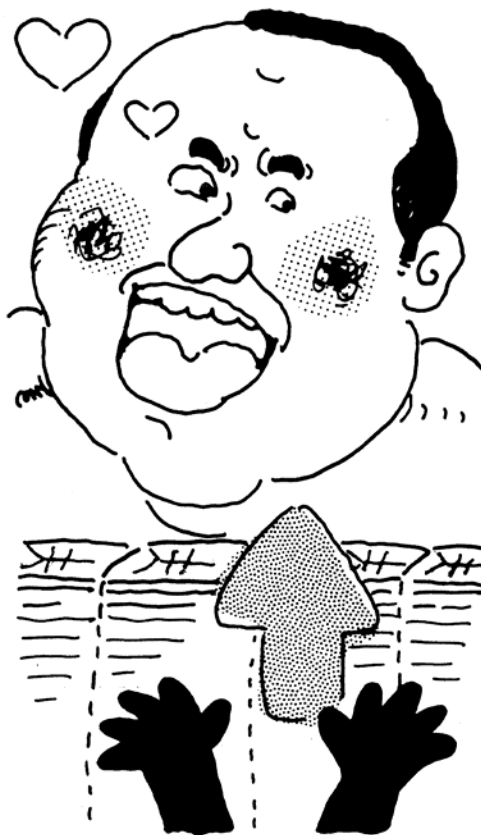
A	A		B		B
	A	まあA	B	まあB	
金持ち	65.9	25.6	5.4	3.1	貧しい
	91.5		8.5		
頭が良い	29.7	43.9	14.4	12.0	頭が良くない
	73.6		26.4		
外交的	25.6	46.0	18.5	10.0	内向的
	71.6		28.5		
体が丈夫	12.4	44.0	29.0	14.6	体が弱い
	56.4		43.6		
リーダーシップあり	16.7	36.7	25.1	21.6	リーダーシップなし
	53.4		46.7		
社会的に尊敬	6.4	33.5	37.0	23.1	軽べつ
	39.9		60.1		
努力型	6.8	29.0	33.1	36.1	なまけ者
	35.8		69.2		
思いやりがある	1.2	11.6	41.4	45.8	思いやりに欠ける
	12.8		87.2		
正直	1.3	6.7	29.8	62.2	不正直
	8.0		92.0		

政治家の収入

けるというイメージが定着している。悪玉のイメージが強すぎる感じがしないではないが、この政治家イメージも、なんとなく理解できるような数値である。

特に、ロッキード事件などが報じられ、何億とかいう庶民に縁のない金額が政治家の懐に入ったらしいできごとがあっただけに、こうした悪役イメージの強さも当然なのかもしれない。

なお、さまざまな職業をあげ、オープン・アンサーの形で、平均月収を推定させたところ、図7のような結果が得られた。サラリーマンの収入が26万7千円で、高校の教師が27万6千円、大企業の課長が45万8千円という数値である。全体にやや高めの数値となっているが、その中でも政治家は月収ナンバー1の162万4千円としての評価を受けている。大企業の社長より、最高裁の裁判長よりも高給をとっているのが、政治家という見方である。

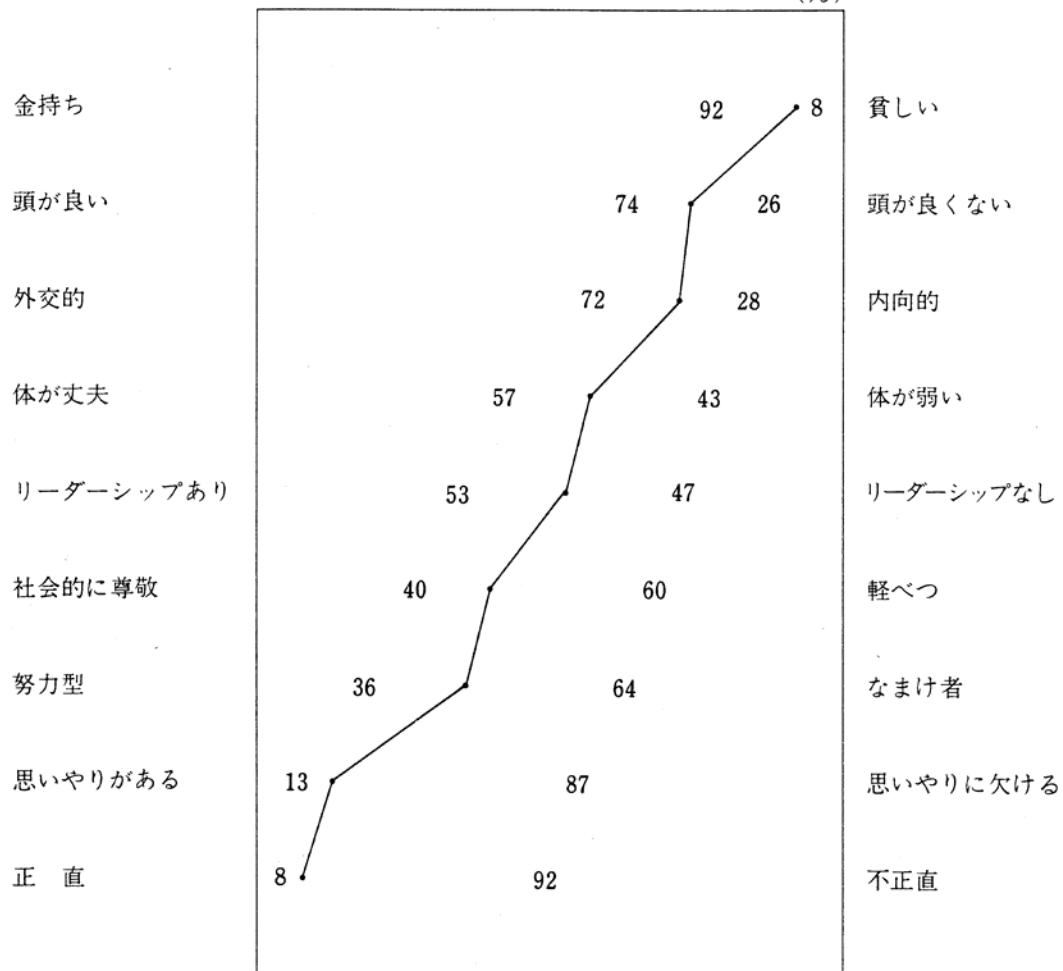


ちなみに、国会議員の月当たりの収入は平均して162万4千円と見込まれているが、収入に対する推定の単純集計の結果は以下のとおりであった。 <()内は累計を示す>

1	50万円以下	11.2%
2	50～99万円	35.9% (47.1%)
3	100～124万円	22.5% (69.6%)
4	125～149万円	0.7% (70.3%)

図6 政治家のイメージ

——頭が良いかもしれないが、うそつきで金持ち——
(%)

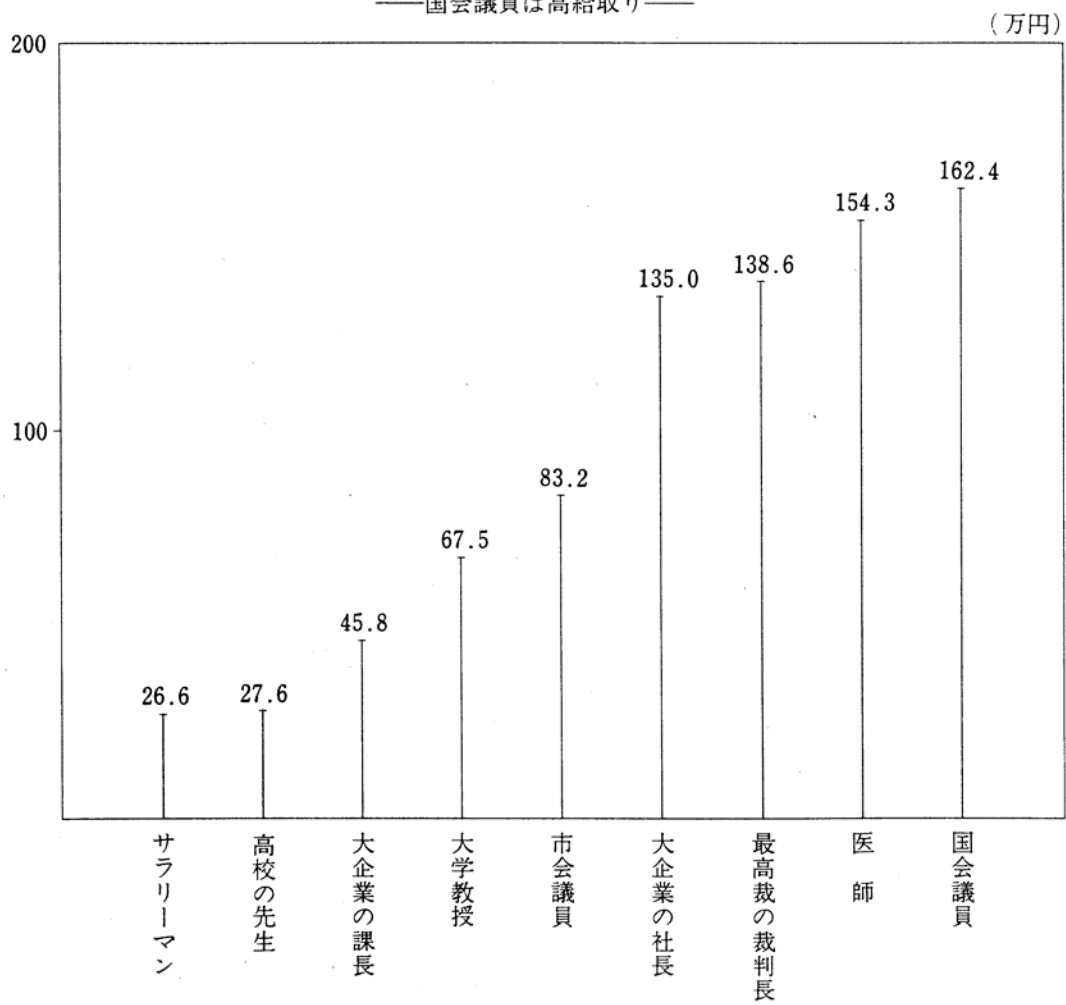


5	150～199万円	8.6% (78.9%)
6	200～299万円	7.9% (86.8%)
7	300～499万円	5.4% (92.2%)
8	500～799万円	3.0% (95.2%)

9 800万円以上 4.8% (100%)
 並はずれた収入を得ているが、そのかげでな
 にか悪いことをしている不正直な人というイ
 メージである。

図7 月収の推定

——国会議員は高給取り——



2. 政治家への尊敬度

つきたい仕事か

そうだとすると、そうした政治家を志す気持ちはうすれてくるのが当然の推移なのかもしれない。事実、なれるなれないかは別にして、「次のような仕事につきたいと思いますか。○をつけてください」の形で設問を試みたところ、表19のような結果が得られた。

この設問とは別に、「一生懸命にがんばればつけると思うか」も尋ねているので、念のために表19の右欄に付すことにした。そこで、両者の数値を視野におきながら、職業に対するつきたさを考えると、「なりたいが、なりにくい仕事」として、医師や大学教授が上がってくる。それに対し、国会議員や市長などが下位にランクされているのは、なれるなれないはともかく、なる気持ちになれないのが大きな原因と考えられる。

政治家を尊敬できるか

こうした推定が必ずしも的はずれでない例証として、表20のような結果が得られている。これは10の職業を示して、「あなた自身の気持ちとして、尊敬する順に番号をつけてください」の形で、職業評価を求めた結果である。



社会学などで、職業評価のスケールを問題にすることが多い。もちろん、職業に貴賤がないのはいうまでもないが、そうした問題とは別に、その仕事に必要な技術や知識、その仕事につくためのキャリア、収入、世間的な評価、その職業の将来性、就労条件などによって、それぞれの職業についての一種の序列が心の内にできる。しかも、そうした序列は社会的に共有され、職業評価の階段（ラダー）を作ることが多い。その結果として、

特定学部への志願者が増加したり、転職を図る者が増えるなどの現象が生まれてくる。

生徒たちの反応はかなりのちらばりを示しているが、平均値に着目すると、尊敬度の1位に大学教授、次いで医師という専門職としての評価の定着した仕事位置している。そして3位に「腕の良い大工」、さらに「ビルの設計士」というような技術を売りものにする職種が並んでいる。

そうした中で、本調査の中心テーマともい

表19 仕事につきたい割合

(%)

	サンプル 平均	男 子			女 子			一生懸命に がんばれば つけるか
		高1	高2	高3	高1	高2	高3	
大会社の社長	36.6	38.7	52.6	49.8	16.9	13.9	12.8	21.0
喫茶店のマスター	29.5	24.3	31.2	28.0	21.6	46.1	31.8	54.2
新聞記者	29.1	23.4	34.2	26.1	26.6	33.9	33.1	43.9
高校の先生	26.5	19.7	31.2	27.3	23.2	34.8	23.6	58.3
医 師	26.1	22.9	25.9	35.1	16.9	27.0	22.3	26.6
大学教授	25.5	22.1	32.8	34.4	12.8	16.5	17.6	25.2
ビルの設計士	19.9	19.7	23.7	28.7	10.4	11.3	9.5	35.2
国会議員	15.9	17.1	22.2	23.0	4.8	5.2	7.4	15.7
腕の良い大工	14.8	14.7	19.5	20.8	6.4	9.6	6.8	38.0
市 長	8.2	10.6	12.8	11.7	1.6	0.9	1.4	16.0

うべき政治家は、8位に市長、9位に国会議員と低迷をつづけている。なかでも国会議員を、10の仕事の中の10位にした生徒が34%に達し、8～10位とした者は全体の55%と過半数に及ぶ。

ここで、その仕事についての「なりたさ」(表19)と社会的尊敬(表20)とのランクをクロスさせると、図8のとおりとなる。

全体は、「社会的に尊敬されているが、なるのが大変そうで、なれそうもない」と思ってい

表20 職業別の尊敬度
——政治家への尊敬度は低い——

(%)

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位	\bar{x}
1 大学教授	17.3	17.3	12.3	11.3	8.4	7.7	7.0	6.9	3.2	8.7	4.42
2 医師	21.3	12.2	10.7	8.6	10.3	8.0	5.2	6.5	5.8	11.3	4.66
3 腕の良い大工	23.9	10.3	11.0	5.9	7.4	6.1	5.8	7.5	8.6	13.6	4.88
4 ビルの設計士	4.8	16.0	11.7	12.1	10.1	11.3	10.3	10.2	4.4	9.1	5.23
5 高校の先生	7.0	9.0	12.0	10.5	9.7	11.4	10.8	7.7	5.9	15.8	5.69
6 大会社の社長	10.9	8.1	8.2	9.3	8.8	10.7	10.1	9.3	8.6	16.0	5.79
7 新聞記者	4.1	5.7	9.3	11.2	11.3	12.1	12.8	11.5	9.1	13.0	6.10
8 市長	1.8	4.7	6.4	10.5	11.0	9.8	11.5	12.7	19.3	12.2	6.65
9 国会議員	4.3	5.2	7.2	6.9	7.1	6.5	7.7	9.6	11.4	34.0	7.13
10 喫茶店のマスター	3.6	5.3	5.3	5.8	7.9	8.4	9.5	9.6	13.5	31.0	7.18

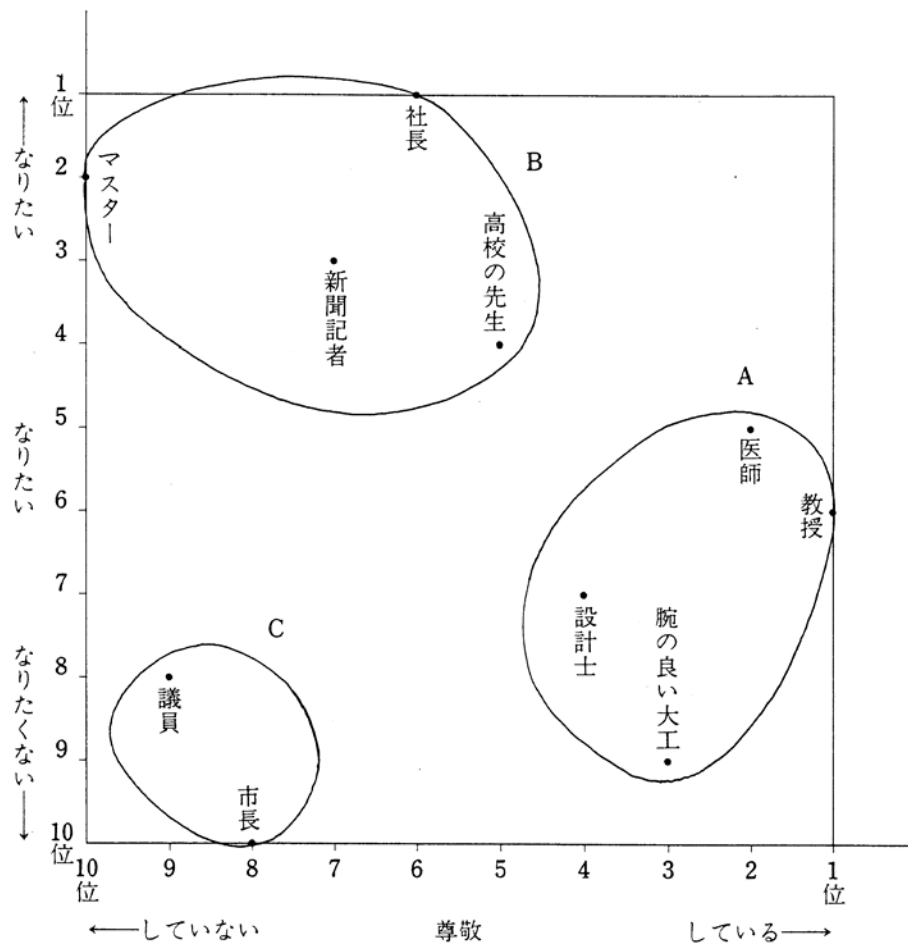
注) \bar{x} は順位の平均

る仕事」=A、「ほどほどに尊敬されているし、なってもよいと思える仕事」=B、「社会的に尊敬されていないし、なる気になれない仕事」=Cの3つに分かれている。

この中で、やはり気になるのは、政治家に

ついでの評価がきわめて低い事実であろうが、こうした問題は、まとめにかえての中で全体の調査結果をふまえながら、考察をつづけていくことにしたい。

図8 尊敬と成りたいさ



まとめにかえて●

アメリカの子どもたちは、一度は大統領になる日を夢みるといわれる。事実、欧米で実施された職業評価の結果をみても、知事や市長などの政治家に対する社会的な尊敬度はきわめて高いのが通例である。ウォーターゲート事件で大統領の権威が揺らいだ直後でも、あれは個人の問題で、大統領職についての信頼は変わらなかったという調査結果もある。

しかし、本調査によると、政治家を見つける高校生たちの目には畏敬はむろんのこと、尊敬の気配すらうかがうことはできなかった。もちろん高校生たちも、イメージあるいは感覚としては政治をとらえている。しかし、いわばさめた目で、換言するなら、自分に関係ない遠い世界の現象として、政治を見つめているにすぎない。そのため、くり返し指摘してきたように、政治への関与についてはきわめて消極的な態度を示した。自分自身はむろんのこと、友人の手助けであっても、政治に関与する気持ちにはなれないというのである。

確かに、われわれおとなの間にも、政治に関与するのは愚かなことというような気運が強まっている。したがって、政治との距離をおき、ひややかな目で政治を見つめる態度は高校生に限らないようにも思う。

そうはいうものの、あらためてふれるまでもなく、政治のない社会はありえない。つきつめていくと、政治の形態やレベルは、その社会を担う人たちの意識や行動に基礎をおいている。したがって、今回の調査結果が示唆しているように、政治にダークなイメージがついてまわり、クリーンに生きるために人々が政治離れをしたとしても、政治はなお残存しつづける。その結果、無関心層の増大と比例する形で、かえって政治のダーク度が増す可能性が強い。

そうだとするならば、より望ましい政治のあり方を求めようとするには、人々が政治に積

極的な関心を寄せると同時に、有為の人材を政治の舞台に送り出すことが必要であろう。

しかし、高校生時代に政治と断絶した真空地帯に身を寄せていた者が、成人してから政治に関心を寄せるとは考えられない。それだけに、高校生の内でも、それなりに政治に対する心構えを身につけさせる必要はあろう。

もっとも高校生たちは、現代でも知識として政治を学ぶ機会が多い。小学生の頃からくり返し、三権分立やら二院制の長所、行政府の権限などを社会科の中で学習しているからである。しかし、児童会や生徒会はほとんど形式的なものになり、クラスのホームルームの形骸化も進んでいる。学校や学級の中で、生徒たちにゆだねられた自治の幅が狭く、決定しなければならないことが少ないからであろう。そうした意味で、生徒たちは生きた政治を身のまわりで体験する機会を持つことなしに成長していく。

政治に対する心構えを、まったく欠いた高校生たちである。こうした生徒たちが、いずれ選挙権を持ち、一票を行使し始める。そうした時代の政治に大きな希望を託しえないのはいうまでもあるまい。

今回の調査は、日本ではあまり試みられていないジャンルのテーマであるだけに、データの読み取りを行なった現在、分析の深まりを欠いた箇所が少なくない。今後、いくつかの角度からの分析を進め、政治に対する主体的な態度を形成させるために、なにが障害となっているか、そして、それをどう除去していくべきのかなどを検討していく必要性を感じた。本報告書が、政治的な態度形成研究の礎石となることを期待したい。

調査のお願い

この調査票は高校生のみなさんたちが、政治についてどんな気持ちを持っているのかをお尋ねするものです。コンピューターで処理しますので、記入してもらったことで、ご迷惑をかけることはありませんので、よろしく願いいたします。

高校教育研究会

奈良教育大学教授 深谷 昌志

()立 ()高校 ()年 男・女 (どちらかに○)

- ① (1) あなたが、20才になり選挙権を持てるようになったら、初めての選挙に投票に行くと思いますか。

	ぜったい 行く	たぶん 行く	行くかも しれない	行かないかも しれない	たぶん 行かない	ぜったい 行かない
① 市議員選挙	1	2	3	4	5	6
② 市長(または町長)選挙	1	2	3	4	5	6
③ 県議員選挙	1	2	3	4	5	6
④ 知事選挙	1	2	3	4	5	6
⑤ 国会議員選挙	1	2	3	4	5	6

- (2) それでは、そのあと選挙のたびに、あなたは投票に行くと思いますか。

	いつも 行く	たぶん 行く	行くかも しれない	行かないかも しれない	たぶん 行かない	ぜったい 行かない
① 市議員選挙	1	2	3	4	5	6
② 市長(または町長)選挙	1	2	3	4	5	6
③ 県議員選挙	1	2	3	4	5	6
④ 知事選挙	1	2	3	4	5	6
⑤ 国会議員選挙	1	2	3	4	5	6

- ② 将来、仲間や知人から推されたら、あなたは、次のような議員や長になってみたいと思いますか。

	ぜひ なりたい	できたら なりたい	やや なりたい	やや なりたくない	あまり なりたくない	ぜんぜん なりたくない
① 市議員	1	2	3	4	5	6
② 市長	1	2	3	4	5	6
③ 県議員	1	2	3	4	5	6
④ 知事	1	2	3	4	5	6
⑤ 国会議員	1	2	3	4	5	6

③ 将来、仲間や知人の中に政治家として出馬して欲しい人がいたら、あなたは、次のような選挙の場合、選挙運動を積極的に手伝うつもりがありますか。

	積極的に 手伝う	かなり 手伝う	少し 手伝う	やや 手伝いたくない 気持ちがする	手伝う 気持ちは あまりない	まったく 手伝う 気持ちはない
① 市会議員	1	2	3	4	5	6
② 市長	1	2	3	4	5	6
③ 県会議員	1	2	3	4	5	6
④ 知事	1	2	3	4	5	6
⑤ 国会議員	1	2	3	4	5	6

④ あなたは、あなたの地元から選出されている次のような人たちをどれくらい知っていますか。

知っていれば → 1
 知らなければ → 2 } でお答えください。

なお、市会議員のように、たくさんの方がいる場合は、あなたの家に近い人をイメージにおいてお答えください。

	1	2	3	4	5
	その人の名前を 知っていますか	その人の顔を 知っていますか	だいたいの人柄を 知っていますか	政治家としての キャリアを知っていますか	政治家としての 考え方を知っていますか
① 市会議員					
② 市長					
③ 県会議員					
④ 知事					
⑤ 国会議員					

⑤ あなたは、次のような人たちのことをどれくらい知っていますか。

知っていれば → 1
 知らなければ → 2 } でお答えください。

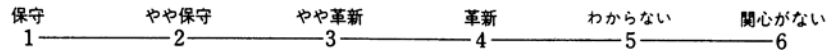
	1	2	3	4	5
	その人の名前を 知っていますか	その人の顔を 知っていますか	だいたいの人柄を 知っていますか	政治家としての キャリアを知っていますか	政治家としての 考え方を知っていますか
① 文部大臣					
② 大蔵大臣					

		1	2	3	4	5
		その人の名前を知っていますか	その人の顔を知っていますか	だいたいの人柄を知っていますか	政治家としてのキャリアを知っていますか	政治家としての考え方を知っていますか
③	外務大臣					
④	総理大臣					
⑤	アメリカの大統領					
⑥	イギリスの首相					
⑦	フランスの大統領					
⑧	ソビエトの首相					
⑨	社会党の党首					
⑩	公明党の党首					

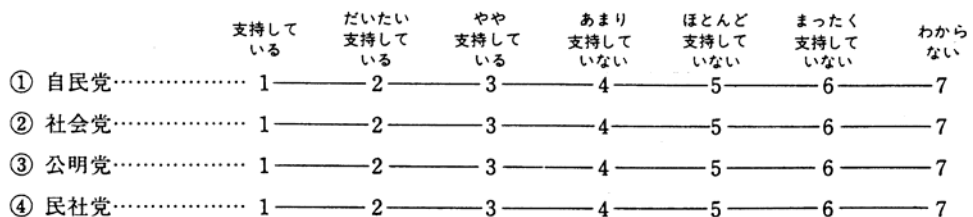
6 (1) 今、国会議員の選挙があって、選挙権を行使できるとしたら、どの政党の候補に投票しますか。

1. 投票へ行かない
2. 自民党
3. 社会党
4. 公明党
5. 民社党
6. 共産党
7. その他の政党 ()
8. 支持政党がないので、その場で考える

(2) かりに、政党を保守と革新にわければあなたは、どちらを支持しますか。



7 次に、政党の名前が書いてあります。あなたは、それぞれの政党の考え方をどれくらい支持していますか。



- | | | | | | | | | |
|----------|---|------------|--------------------|------------------|--------------------|---------------------|---------------------|-----------|
| | | 支持して
いる | だいたい
支持して
いる | やや
支持して
いる | あまり
支持して
いない | ほとんど
支持して
いない | まったく
支持して
いない | わから
ない |
| ⑤ 共産党 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| ⑥ 新自由クラブ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| ⑦ 社会民主連合 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | |

8 かりに、あなたが国会議員だとして、今の政府についての不信任案が提出されました。あなたは不信任案に賛成しますか、反対しますか。

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| ぜったい
賛成 | だいたい
賛成 | だいたい
反対 | ぜったい
反対 |
| 1 | 2 | 3 | 4 |

9 次の政党について、どんな感じがするか教えてください。

- (1) 自民党
- | | | | | |
|---------|---|----------------|----------------|----------|
| | A | どちらかという
と A | どちらかという
と B | B |
| ① 清潔 | 1 | 2 | 3 | 4 不潔 |
| ② 明るい | 1 | 2 | 3 | 4 暗い |
| ③ 金持ち | 1 | 2 | 3 | 4 貧しい |
| ④ 魅力がある | 1 | 2 | 3 | 4 魅力に乏しい |
| ⑤ 開放的 | 1 | 2 | 3 | 4 閉鎖的 |
| ⑥ 信頼できる | 1 | 2 | 3 | 4 信頼できない |
| ⑦ 民主的 | 1 | 2 | 3 | 4 独裁的 |

- (2) 社会党
- | | | | | |
|---------|---|----------------|----------------|----------|
| | A | どちらかという
と A | どちらかという
と B | B |
| ① 清潔 | 1 | 2 | 3 | 4 不潔 |
| ② 明るい | 1 | 2 | 3 | 4 暗い |
| ③ 金持ち | 1 | 2 | 3 | 4 貧しい |
| ④ 魅力がある | 1 | 2 | 3 | 4 魅力に乏しい |
| ⑤ 開放的 | 1 | 2 | 3 | 4 閉鎖的 |
| ⑥ 信頼できる | 1 | 2 | 3 | 4 信頼できない |
| ⑦ 民主的 | 1 | 2 | 3 | 4 独裁的 |

- (3) 公明党
- | | | | | |
|---------|---|----------------|----------------|----------|
| | A | どちらかという
と A | どちらかという
と B | B |
| ① 清潔 | 1 | 2 | 3 | 4 不潔 |
| ② 明るい | 1 | 2 | 3 | 4 暗い |
| ③ 金持ち | 1 | 2 | 3 | 4 貧しい |
| ④ 魅力がある | 1 | 2 | 3 | 4 魅力に乏しい |
| ⑤ 開放的 | 1 | 2 | 3 | 4 閉鎖的 |
| ⑥ 信頼できる | 1 | 2 | 3 | 4 信頼できない |
| ⑦ 民主的 | 1 | 2 | 3 | 4 独裁的 |

(4) 共産党
どちらかというど どちらかというど

	A	A	B	B
① 清潔……………	1	2	3	4 ……不潔
② 明るい……………	1	2	3	4 ……暗い
③ 金持ち……………	1	2	3	4 ……貧しい
④ 魅力がある……………	1	2	3	4 ……魅力に乏しい
⑤ 開放的……………	1	2	3	4 ……閉鎖的
⑥ 信頼できる……………	1	2	3	4 ……信頼できない
⑦ 民主的……………	1	2	3	4 ……独裁的

10 国会議員にはいろいろな人がいると思いますが、平均するとあなたは国会議員にどんなイメージを抱いていますか。

	A	まあ A	まあ B	B
① 外交的……………	1	2	3	4 ……内向的
② 体が丈夫……………	1	2	3	4 ……体が弱い
③ 頭が良い……………	1	2	3	4 ……頭が良くない
④ 正直……………	1	2	3	4 ……不正直
⑤ 努力型……………	1	2	3	4 ……なまけ者
⑥ 思いやりがある……………	1	2	3	4 ……思いやりに欠ける
⑦ リーダーシップがある……………	1	2	3	4 ……リーダーシップに欠ける
⑧ 金持ち……………	1	2	3	4 ……貧しい
⑨ 社会的に尊敬されている……………	1	2	3	4 ……社会的に軽べつされている

11 現在、国会議員をしているような人は、高校時代どんな生活を送っていたと思いますか。

	クラスの中で トップ	上の方	中の上	まん中 ぐらい	中の下	下の方
① 数学の成績……………	1	2	3	4	5	6
② 英語の成績……………	1	2	3	4	5	6
③ 国語の成績……………	1	2	3	4	5	6
	とても ある	かなり ある	やや ある	やや ない	かなり ない	とても ない
④ 先生からの信頼……………	1	2	3	4	5	6
⑤ 仲間からの人気……………	1	2	3	4	5	6
	とても 得意	かなり 得意	やや 得意	やや 苦手	かなり 苦手	とても 苦手
⑥ スポーツ……………	1	2	3	4	5	6
⑦ 遊び……………	1	2	3	4	5	6

- 12 次の人たちの月給（あるいは1か月の収入）は、だいたいどれくらいだと思いますか。感じ
てかまいませんので、推定の月給を書いてください。

① ごく普通のサラリーマン	→		万円位
② 高校の先生	→		万円位
③ 大きな企業の課長	→		万円位
④ 大きな企業の社長	→		万円位
⑤ 大学教授	→		万円位
⑥ 医師	→		万円位
⑦ 市議員	→		万円位
⑧ 最高裁の裁判長	→		万円位
⑨ 国会議員	→		万円位

- 13 なれる、なれないは別として次のような仕事につきたいと思いますか。つきたいものに○を
つけてください。○はひとつもなくとも、たくさんつけてもかまいません。

1. 大きな会社の社長
2. ビルの設計士
3. 高校の先生
4. 新聞記者
5. 喫茶店のマスター
6. 医師
7. 国会議員
8. 大学教授
9. 市長
10. 腕の良い大工

- 14 それでは、なる、ならないは別にして、一生懸命にがんばればつけると思う仕事に○をつけ
てください。○はひとつもなくとも、たくさんつけてもかまいません。

1. 大きな会社の社長
2. ビルの設計士
3. 高校の先生
4. 新聞記者
5. 喫茶店のマスター
6. 医師
7. 国会議員
8. 大学教授
9. 市長
10. 腕の良い大工

- 15 それでは、①～⑩の仕事について、あなた自身の気持ちとして、尊敬をする順に□の中に番号をつけてください。

□	①大きな会社の社長
□	②ビルの設計士
□	③高校の先生
□	④新聞記者
□	⑤喫茶店のマスター
□	⑥医師
□	⑦国会議員
□	⑧大学教授
□	⑨市長
□	⑩腕の良い大工

- 16 (1) 民主主義は、ひとりひとりの考え方を大事にする政治の仕方だといわれています。今の日本の政治は民主的だと思いますか。

民主的 だと思う	まあ 思う	あまり 思わない	まったく 思わない
1	2	3	4

- (2) 次にいくつかの国の名前が書いてあります。その国の政治がいちばん民主的だと思うものから順に、民主的でない国まで、順番をつけてください。

□	アメリカ	□	フランス
□	イギリス	□	中国
□	韓国	□	日本
□	フィリピン	□	ソ連

- (3) みんなが一票を選挙に投票することにより、世の中を良くすることができますか。

そう 思う	まあ 思う	あまり 思わない	まったく 思わない
1	2	3	4

- 17 (1) あなたは、今の憲法をどう思っていますか。

(今の憲法は)

良いと思う	まあ良い	あまり 良くない	とても 良くない
1	2	3	4

(2) 今の憲法について、**A**と**B**の2つの考え方があります。あなたは、どちらの意見に賛成ですか。

A → 今の憲法は第二次大戦後、アメリカから押しつけられたから、改正すべきだ

B → 憲法の作られ方はともかく、良い憲法であることに変わりないから、憲法はそのまま守るべきだ

- 1. **A**
- 2. どちらかという**A**
- 3. どちらかという**B**
- 4. **B**

(3) もし、次のような内容について、憲法改正の投票があったら、あなたは改正に賛成しますか。

	(憲法改正に)				
	ぜったい 反対	かなり 反対	かなり 賛成	とても 賛成	わから ない
① 軍隊を作る……………	1	2	3	4	5
② 男女平等をやめる……………	1	2	3	4	5
③ 徴兵制をひく……………	1	2	3	4	5
④ 言論の自由を制限する……………	1	2	3	4	5

18 あなたは、新聞の政治面を読むことが、どれくらいありますか。

まったく 読まない	めったに 読まない	ごくたまに 読む	ときどき 読んでいる	いつも 読んでいる
1	2	3	4	5

19 あなたは、テレビのニュースを、どれくらい見えていますか。

まったく 見ない	見ること もある	ときどき 見る	だいたい 見ている	いつも 熱心に見ている
1	2	3	4	5

20 政治のことなどが、家族の間で話題になることがありますか。

まったく 話題にならない	めったに 話題にならない	ときどき 話題になる	かなり 話題になる	いつも 話題になる
1	2	3	4	5

21 友だちの間で、政治のことが話題になることがありますか。

まったく めったに ときどき かなり いつも
話題にならない 話題にならない 話題になる 話題になる 話題になる
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5

22 あなたは、高校生としては政治に関心を持っている方だと思いますか。

とても かなり やや やや あまり ぜんぜん
持っている 持っている 持っている 持っていない 持っていない 持っていない
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5 ————— 6

23 あなたは、将来[A]と[B]のどちらのような生き方をしたいと思いますか。あてはまる番号に○をつけてください。

A → 自分の生活を多少犠牲にしても、
会社のためにがんばり、会社の中
でえらい人になる

B → 休みたい時はいつも休み、自分の生活
を大事にする。そのかわり、会社の中
でえらくなれそうにない

- 1. [A]
- 2. どちらかといえば [A]
- 3. どちらかといえば [B]
- 4. [B]

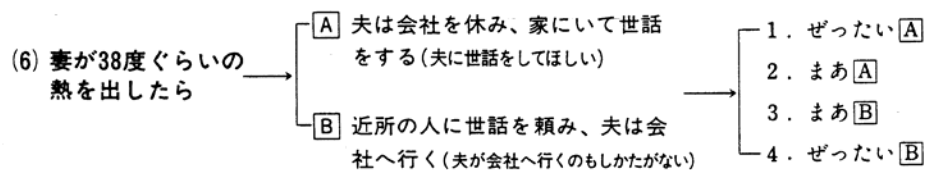
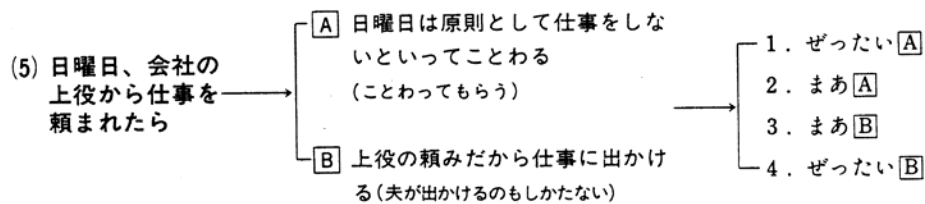
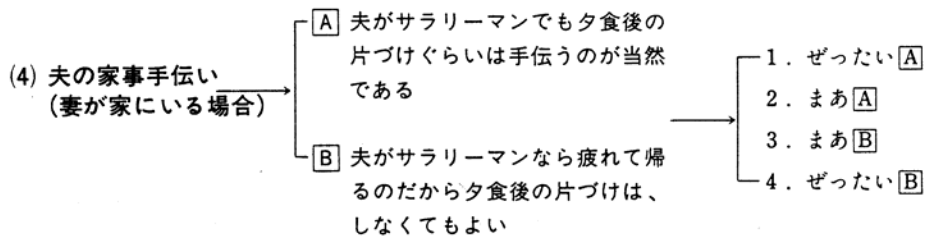
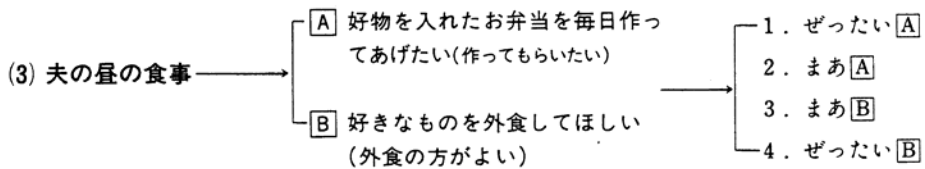
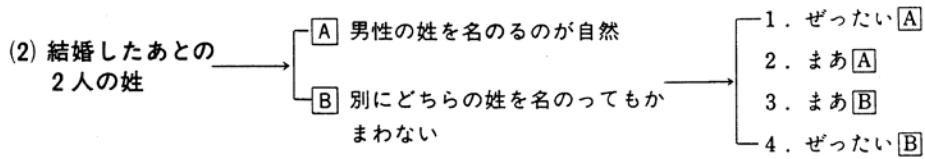
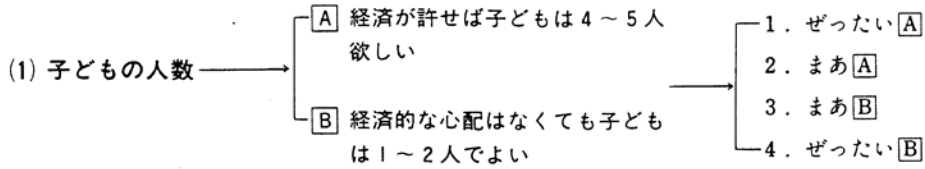
24 あなたのおとうさんは、どんなお仕事をしていますか。1～6の中で近いところに○をつけてください。

- 1. 自分の店をやっている
- 2. 公務員やサラリーマンや先生
- 3. 会社の課長などの管理職
- 4. 新聞記者や技師などのセミ専門職
- 5. 医師や弁護士、教授などの専門職
- 6. その他

25 あなたのお宅の暮らし向きは、どれくらいだと思いますか。

とても かなり やや ふつう やや かなり とても
ゆたか ゆたか ゆたか ぐらい まずしい まずしい まずしい
1 ————— 2 ————— 3 ————— 4 ————— 5 ————— 6 ————— 7

26 あなたは将来結婚したら、どんな暮らし方をしたいと思っていますか。あなたの気持ちに近い番号に、ひとつ〇をつけてください。



27 最後にあなたご自身のことをお尋ねします。

(1) 現在のあなたに近いところに○をつけてください。

- | | とても得意 | かなり得意 | やや得意 | ふつうぐらい | やや苦手 | かなり苦手 | とても苦手 |
|--------------|-------|-------|------|--------|------|-------|-------|
| ① 英語の勉強…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ② 数学の勉強…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ③ スポーツ…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| ④ がんばる力…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

(2) 一生懸命にがんばったら、以下のような大学へ入れると思いますか。

- | | とても無理 | かなり無理 | やや無理 | なんとかなるかも | 多分入れると思う |
|----------------|-------|-------|------|----------|----------|
| ① 東大や京大など…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| ② 早大や慶応など…………… | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

長い間ありがとうございました。

●福武書店 事業部案内●

●通信教育本部●

●高校通信教育部

高校生を対象に、受験と進路情報の「進研ゼミ」高校講座を行っています。また、「進研新聞」を企画・発行しています。

●中学通信教育部

中学生を対象に、通信教育による学力増進のための「進研ゼミ」中学講座を行っています。また、「進研ニュース・中学版」を企画・発行しています。

●小学通信教育部

個性豊かな小さい芽を大切に育てたい…小学生に基礎学力をつけ、将来伸びる能力をつける個別対応の通信教育講座です。

●テスト学参本部●

●高校部

「模擬試験(進研模試)」の実施、および「大学受験用問題集」、「進研ニュース(進学情報紙)」を企画・発行しています。

●中学部

中学生を対象とした「学力評価テスト」、各種「副読本」、「学習参考書」、「問題集」を発行しています。

●学参部

中学・高校生を対象とした「学習参考書」、「問題集」を企画・発行しています。

●手帳部

全国の中学・高校で、学校生活に必携の「生徒手帳」を制作しています。

●書籍本部●

●書籍編集部

「学術図書」、「一般教養図書」、「絵本」、「児童書」を刊行しています。また、「福原麟太郎随想全集(全8巻)」および「大原總一郎随想全集(全4巻)」を刊行しています。

●OID編集部

「オックスフォード・カラー英和大辞典」を刊行しています。

●児童書部

「ほしのあかちゃん」、「しまふくろうのみずうみ」、「はなののびるおうさま」等々のほん訳・創作絵本を刊行しています。

●文芸部

文芸雑誌「海燕」および「記録を記録する(黒井千次)」、「私の好きな古典の女たち(瀬戸内晴美)」等々の単行本を刊行しています。

野間宏

戦後文学の代表的作家が、今日の問題意識から改めて回想する自伝的作家の作品論のほか美術論、演劇論を含む久々のエッセイ集!

吉本隆明

いま改めて回想する戦後文学!

空虚としての主題

いま書かれている小説作品は、どういう形で現在の中へ入ってくるか——現代小説をその深部から解説、混迷した文学状況を本質的に把握する著者初めての文芸時評集!!

小説の現在を解明する初の文芸時評!

